

広報

環境カウンセラーちば

第23号

特定非営利活動法人
環境カウンセラー
千葉県協議会

環境カウンセラーは、環境省に認定された環境の専門家です。

環境調査、環境管理・監査、廃棄物対策、環境教育・学習などお気軽にご相談下さい。

第7回企業環境セミナー開催

10月22日(金)第7回企業環境セミナーを環境カウンセラー千葉県協議会と千葉商工会議所との共催により、千葉商工会議所第一ホールで開催した。ISO14001に関心のある企業、行政、環境カウンセラーの方たち約80名が参加し、盛況であった。前回のセミナーでは活用に焦点を当てていたが今回はISO14001の認証取得を再度見直してタイトルを「中小企業の環境マネジメントシステムの構築」ということとし、活用をアピールしながら構築することの重要性を説明した。

まず主催者から歓迎の挨拶の後、千葉県環境生活部次長の神子伸氏から来賓としてご挨拶をいただいた。ご挨拶の中では県の環境行政、ISO14001の普及状況などの紹介があった。

セミナーは当協議会会員による基調講演及び講演の後、3つの事例紹介を行い、最後に質問を受けた。

事例紹介に並行して別室で個別相談も受けた。

(1) 基調講演 廣川 一男氏

「中小企業の環境マネジメントシステムの構築」(スリムなシステム構築、有益な環境側面抽出とその目的目標への反映による経営効率向上など)という演題で最近のISOの問題点及びその解決策を含めて説明された。

(2) 講演 山本 光男氏

「中小企業の環境マネジメントシステム運用の心構え」(マネジメントシステムの基本となる5S、経営管理の4原則、QC7つ道具、ホウレンソウとISO14001規格要求事項との関連について)という演題でISO14001に取り組む前に企業として対応しておくべき各事項について説明された。

(3) 事例紹介

①(株)ハマイ(バルブ製造業) 秋庭 教人氏

「ISO14001の導入」(将来の企業のあり方を見据えたく環境を意識した事業活動)を目指し、更には品質の向上をねらう)という演題で構築に際しての苦労話とそれらの解決法を紹介された。



理事長挨拶

②千葉製粉(株)(製粉業) 斎藤 文雄氏

「環境マネジメントシステムを構築して」(環境マネジメントシステムの認証取得により、<コストダウン及びマネジメントの改善>を実現させ、環境に配慮した企業を目指す)という演題で認証取得して1年経過した時点での評価と今後の更なる活動方針が説明された。

③(株)住化分析センター(分析サービス業) 蛭子 聡氏

「分析試験サービス業における環境マネジメントシステムへの取組み」(紙・ゴミ・電気的环境負荷削減から、有益な環境側面へと環境目標を転換して、経営に貢献するシステムへ改善する)という演題で3年間に紙・ゴミ・電気は卒業し、有益な環境側面にチャレンジしている状況の説明があった。

又、多くの方からアンケートを頂いた。

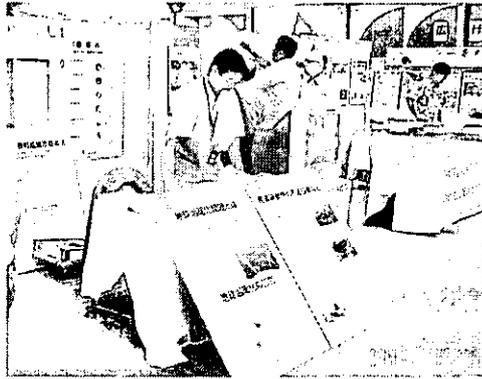
意見・感想については参考になる点が多かったが全般的に好意的な評価をしていただいた。

受ける側のISO14001に対する知識や問題意識にかなりのバラツキがあり全てに対応するのは難しいと感じた。

ISO14001の認証取得件数は国内で16,000件を超え、多くの組織では紙、ごみ、電気を卒業し、次に何をやるかと思案している。今後は有益な環境側面を伸ばしていくことに注力していくべきであろう。

環境マネジメントシステム支援センターでは30数名のメンバーが研鑽に励み、環境マネジメントシステム構築のコンサルや各種セミナー講師の派遣に備えている。何かニーズがあれば声をかけていただきたい。

(環境マネジメントシステム支援センター長 二宮 恵)



出展風景

環境活動見本市・エコメッセちば2004に出展

土田 茂通

エコメッセちば2004は昨年までの屋外会場より幕張の国際会議場の屋内へ会場を移し、また例年10月開催から、幕張メッセにて行われる恐竜展来場者を期待して8月に変更して行った。

今年の主題は「恐竜は・・・私たちは資源循環型社会をめざす」であった。当協議会からの実行委員は企画運営部に参加し、出展者の循環型社会に於ける位置付け調査やエコステージ・エコツアー・エコレポーターなどを担当した。

エコメッセちばは1996年から開催され、当協議会は2000年から実行委員会に参加し協力を行ってきた。ブースを設けての出展は2002年からで、本年は3回目になる。本年は主題に沿った展示を検討の結果、会員の行っている環境保全活動事例を紹介し、循環型社会実現への活動を示した。具体的には、小学校での環境に配慮した野菜・食事づくりの体験学習やケナフによる総合学習等の支援、マングローブ植林による地球温暖化対策、絶滅危惧種の昆虫の生息地保全活動他3事例のパネル展示を行った。

エコメッセでの展示について

協議会自体の活動ではなく、市民の立場、視点で個人で参加している活動事例を展示できたことは、メンバーの幅広い活動を示すものといえましょう。

市民部門は協議会内部において少数派です。考え方や展開方法、対応などすべての基準が違っていると言っても過言ではないでしょう。ですから事業者部門の方が仕事の延長ではない、個人的な興味やさまざまな動機で取り組む事柄を通じて、部門を超えて相互理解の道の入り口に立てたのではないかと考えます。そしていつの日にか事業者部門の方々の中から自然も好き、そのために活動できる人が大勢名乗り上げてくださる様になることを願ってやみません。

「エコメッセちば2004」に出展して

環境省関東地区環境対策調査官事務所
安齋 忠

平成16年8月8日に「資源循環型社会の構築」をテーマに「エコメッセちば2004」に出展致しました。

当事務所では、現在の環境問題を国民の日常生活や通常の事業活動から生じる環境負荷の増大が主な原因であると認識し、「エコメッセちば2004」でのパネルの展示及びパンフレットの配布を通じて、私たちのライフスタイルや事業活動のあり方を根本から見直し、社会のあり方そのものを持続可能なものへ変革していくことをメッセージとして伝えたいと考えました。

当日は、各々ブースで親子連れはじめとして多くの方々が多く楽しみながら環境について学んでいる姿が見られましたが、当ブースにもたくさんの方が訪れ、不法投棄に関する質問や日頃の環境問題に対する要望等が寄せられました。

環境問題の解決のためには日常社会や地域社会からの自発的な取組みが極めて重要であり、このための国、地方公共団体、市民のパートナーシップの促進が必要と考えています。当事務所は、「エコメッセちば2004」を一つの契機として、今後とも千葉県におけるパートナーシップの構築を積極的に推進していきたいと考えています。



パネルを前に

展示内容は下記の通りです。パネルはまたの機会に皆さんに是非見ていただきたいと思います。

1. 環境にやさしい野菜作り・食事づくりの体験学習
(山武郡・小関)
2. マングローブ植林による地球温暖化対策(服部)
3. 松戸ケナフの会の小学校支援活動(松戸・土田)
4. アースコン・マツドの活動事例(松戸・土田)
5. 自然の保全体験と環境学習
(当協議会・環境学習センター昨年の活動例紹介)
6. 水環境への取り組み(鎌ヶ谷・倉田)
7. シャープゲンゴロウモドキの保全活動(田島)
(倉田 智子)

大山 長七郎

辻川 毅

今年ほど台風の日本上陸が多かった年はなく、地球温暖化が確実に進んでいると思わざるを得ない。南極、北極の氷が融け、ヒマラヤ等の氷河も融けて海面が上昇し、地球の各地で異常気象が発生していることに歯止めを掛けるには、二酸化炭素(CO₂)の排出を削減する必要がある。03年度の温室効果ガス排出量(速報値)が基準年の90年比で8%増加となったことが環境省より発表された。6%削減が京都議定書で日本に義務付けられている。省エネを含め一層の努力が必要である。8月からの活動を以下の通り報告する。

1. 平成16年8月8日 「エコメッセちば2004」で千葉県産業廃棄物協会とともにごみ減量と不法処理防止をPR
2. 平成16年9月16日、10月14日 千葉県産業廃棄物協会主催の処理業者向けセミナー会場(千葉市・青葉の森公園・芸術文化ホール)で不法処理防止をPR
3. 平成16年10月10日 白井市の文化会館でごみ減量とリサイクルをPR



白井環境フォーラム・パネル展示

八千代市・初めてのサポセン祭り 佐藤 素子

2002年12月、東葉高速鉄道村上駅近くに「やちよ市民活動サポートセンター」が開設されました。官設官営で、市民活動団体からスタッフや運営委員を募って運営しています。私はスタッフとして週1回窓口業務を、また運営委員としても関わっています。

市内でも、さまざまな分野ですばらしい市民活動がされていますが、あまり市民の方に知られていないのが現状です。そこで、今年は市民活動団体の交流促進と市民活動およびサポートセンターの一般市民への認知度アップを目指してサポセン祭りを計画しました。

「自らの手で守ろう、ふるさと白井の自然と環境」を掲げている白井市環境フォーラムが10月10日白井市文化会館で開催された。今年で3回目を数える。

「地産地消がつくる白井市民の心のふれあい(守ろう白井の里山)」をテーマとして、農業と里山を取り上げ、参加者は130名であった。基調講話は千葉大園芸学部 中村 攻教授で、「自然と人間の関係—自然があることで我々が生きている、自然が変わらないように我々が変わるのだ」ということをベースに、白井の里山の重要性、白井の農業があることが宝であるなど、役割と共生をわかりやすく話された。また事例発表では、白井の農業生産者が梨、野菜、米の栽培について、環境保全に対する取り組みと味の確保を本音で語り、消費者からは市民が求める安全な食物とは、及び白井の食文化と農業について、また行政面から千葉のアクション計画を基に千葉ブランドの育成と地元消費を説いた。

パネルディスカッションでは質疑も含み討論が行われ、里山を市民に開放する仕組みづくりと行政のバックアップが健全な環境の保全と農業の育成に繋がることを参加者一同が理解し、生産者—消費者—行政の三者の融合と接近とが大きな収穫であった。またパネル展示は15団体で、当協議会は廃棄物対策センターがごみ減量とリサイクルのPRを行なった。フォーラムには大山、服部、広川、渡辺、上西さんが参加くださった。

(白井市環境フォーラム実行委員長)

116の登録団体に呼びかけ、30名の実行委員と60団体の参加承諾を得たものの、当初予算は0、悪戦苦闘の連続でしたが、八千代市市民参加推進室およびフルルガーデンの協力で11月3日フルルガーデン噴水広場とサポートセンターを会場に市民手作りの「こんにち“わ”ふれあい祭り」を開きました。

当日は、活動紹介展示のほか和太鼓やソーラン節のパフォーマンス、おはなしや折り紙コーナーなど、多彩な市民活動が紹介され、来場者も多く大変な賑わいでした。私の主宰する「八千代自然と環境を考える会」と「八千代環境市民連絡会」では日ごろの活動紹介のほか、手作りのドライフラワーやアクリルダワシの販売や環境カウンセラーの有馬富穂氏と本間格氏の協力を得て地球温暖化に関するパネル展示と環境相談コーナーを設けました。特に改まった相談はなかったものの、展示を見て熱心に質問される方は多く、二つの存在をアピールすることができました。

新役員・新入会員の自己紹介

小角 浩 (こすみ ひろし) 事業者・市民部門
理事 (ECU 担当)・袖ヶ浦市
東京都。半世紀近い期間携わってきた自然と人との係わりについて、社会的関心度に今昔の感に打たれながら研究会・研修活動に努めています。

行政の第一線を退いて後、仲間内で立ち上げた研究会もこの春、より多くの分野の方々と共に社団法人化され、自然環境共生技術の研究を進めています。

このような折、土田理事長から薦められ ECU の自然・緑化担当となった関係で、再度 ECC 理事となった次第です。

本間 格 (ほんま いたる) 事業者・市民部門
理事 (広報部長)・八千代市
東京都。焼却炉及び公害防止機器のエンジニアリング。定年後、北海道で産廃処分場を経営、'04 年 3 月退任、顧問となる。'03 年 9 月市民部門に応募、登録される。環境カウンセラー全国連合会 (ECU) の理事となる。省エネルギー普及指導員 (省エネセンター)、こども環境相談員 (日本環境協会)、千葉県地球温暖化防止活動推進員を務めている。7 年ぶりに千葉県に戻り、協議会で EC 活動を行いたい。帰り新参ですが、どうぞよろしく!!

古畑 義正 (ふるはた よしまさ) 事業者部門
理事 (事務局次長)・習志野市
東京都。第 1 段階は「官」、第 2 段階は「民」に勤務、第 3 の現在は独立しています。第 1 ステージから現在に至るまで一貫して「下廃水処理に関する企画、技術開発、維持管理」を確かな信念があった訳でもないのに疑いもなく続けています。カウンセラーの他に技術士 (衛生工学) APEC-Engineer を持っています。

20 年前に習志野市に住む様になりましたが所謂千葉県民でした。しかし、加齢と共に「千葉県民」として少しは県に貢献しなくてはと殊勝に考えるようになりつつあります。

岡部 正明 (おかべ まさあき) 事業者部門
浦安市
東京都。1983 年にガラスメーカーに入社。現在は化学物質管理、PRTR、環境会計、リスクコミュニケーション等を担当しています。現在、環境省のパイロット事業である化学物質アドバイザーに認定されており、NGO の T-ウォッチ、エコケミストリー研究会の会員、浦安市環境審議会委員。2002 年に英国レスター大学で MBA を取得し、現在英国スタッフオードシャー大学の大学院で環境学を勉強しています。

阿部 邦夫 (あべ くにお) 事業者部門
理事 (環境学習副センター長)・山田町
クラレを卒業し現在は農事組合法人和郷園の環境部門顧問。地下水汚染対策、バイオマス利活用を通して環境対策と持続可能な農業を推進して地球温暖化防止に努めたい。山田町でのバイオマス国家プロジェクト参画。来年 5 月にはメタン自動車が走り、液体肥料が実用化されているはずで。

一方安全・安心野菜の供給のためのシステム作りを推進。ユーレップ GAP の導入を実施しこれを日本版 GAP に展開する活動に参画中。活性炭の利活用の専門家。

石黒 忠 (いしくろ ただし) 事業者部門
理事 (廃棄物対策副センター長)・千葉県
神奈川県。環境問題との関わりは、製鉄会社に在籍中の 1967 年 (公害対策基本法公布) 頃から。排水分析法の JIS 化、排出する排ガス・排水中の硝酸化合物の無害化、鉍滓の有効活用等の研究開発を約 15 年間担当。約 12 年中断後 1994 年から産廃処理設備メーカーで約 9 年間法規制の調査等を実施。取得資格は、公害防止管理者、環境計量士、作業環境測定士を取得。昨年 9 月現役引退。

吉海 照直 (よしかい てるなお) 事業者部門
理事 (総務部副部長)・市原市
熊本県。1971 年から 2000 年まで非鉄メーカーに勤務し、非鉄金属、光ファイバー等の製品分野で、生産技術、設備設計、施設・環境管理等の業務に従事。退職後は自営で環境と品質のマネジメントシステム導入を主とした企業の支援を行っています。非常勤で (財) 省エネルギーセンター専門職。資格: 公害防止管理者 (水質 1 種・大気 1 種)、エネルギー管理士 (熱)、CEAR 登録環境審査員補、JRCA 登録品質システム審査員補など。

渡辺 忠明 (わたなべ ただあき) 市民部門
白井市
新潟県。京都大学農学部を卒業後、自然環境保全行政に関わりたく環境庁 (当時は厚生省国立公園部) に就職。北海道庁を経て尾瀬の国立公園管理官、南極出張、途中本州四国連絡橋公園出向をはさみ本庁勤め。鹿児島県では課長として環境問題全般を担当、瀬戸内海環境保全室長、国立環境研究所環境情報センター長、役人最後は宮内庁庭園課長を 5 年。資格: 技術士環境部門及び建設部門。得意分野: 自然観察等環境学習

秋山 和敏 (あきやま かずとし) 事業者・市民部門
松戸市

現在は、建設と環境の共存を目指す建設コンサルタントに勤めています。得意分野は、ダム・湖沼及び河川の水環境(特に水質)ですが、最近は自然体験イベント、ワークショップ等を含め、環境全般に係っています。「環境福祉学」の分野や先日受講した「介護施設に於ける環境管理」にも興味が膨らんでいます。協議会へのお願いは、日程のセット等に関し、現役の会員のことも少し配慮して戴ければ有難いです。

西部 雅 (にしべ ただし) 事業者部門
柏市

愛媛県。京都大学大学院終了、同時に帝人(株)に入社、工場建設、生産、企画、開発等を担当。定年後数社の技術顧問。現在(省)エネルギーセンター技術専門職。習得した過去の知識、経験にとらわれず、常に最新の技術、情報の収集に勤め、環境の劣化回復に微力を尽くしたいと考えている。休日は囲碁、野菜づくり、たまに仲間とゴルフを楽しむ。エネルギー管理士、公害防止管理者(大気、水質共1種)高圧ガス(甲機械、甲化学、1種冷凍)ボイラー技士(1級)危険物取扱主任(甲)

自然への回帰 自己紹介を兼ねて みずの よしひこ
水野 嘉彦

事業者部門・沼南町
技術士(建設部門)、CEAR 環境審査員、労働安全コンサルタント、厚生労働省セイフティートレーナー。ECとしては環境マネジメントの指導、支援。

休日には朝夕、愛犬と近辺の田んぼ、川沿いまで散歩に出かけること。朝の散歩の後、家の掃除、庭の手入れ、周辺の道路の清掃、草取り。これに夕方の買い物に加え、一日はおおかた暮れてしまいます。縄文の生活と基本的には変わらないような気がして、情けないですが、結構楽しいし、これで仕事のストレスが十分に抜けていくことが実感できています。

囲碁、茶道、華道、書道、篆刻、陶芸、水墨画、油絵など出来る人が羨ましくも思っていますが、私には重苦しく、不向きと思っています。ゴルフは若いとき社用でよくやりましたが、下手であったこともあり、自然環境破壊でもあり如何なものかと思っているところです。結局、私は子供の頃の過ごし方が体に一番自然であり、安らぐようになっていて、その原点は次のような経験からだと考えています。

私は小学校から大学卒業までの15年間、愛知県知多半島の伊勢湾側の町で育ちました。木曾、長良川、揖斐の三川の河口である伊勢湾岸では、海苔の養殖が盛んで釣り、磯遊びが楽しめ、いたるところに松林も

種本 利治 (たねもと としはる) 事業者部門
浦安市

鹿島コンビナートの化学工場に勤めていますが2000年4月にEC-CHIBAの仲間に加えて頂きました。工場の環境管理の業務を10年間担当してきました。環境問題は地域から地球規模まで幅が広くて大変ですが、私達の行動そのものが問われています。出来るだけ多方面に関心を持って活動したいと思っています。EC-CHIBAが会員のポテンシャルを高める場として発展することを願っています

上口 清彦 (かみぐち きよひこ) 事業者部門
野田市

平成16年10月から地元野田市で浄化槽の保守点検、清掃業を主業務とする中央コントロールサービス(株)に入社。過去に水処理業務を多く経験、本業とともに特に水資源を守る活動を専門分野として、県内・地域の環境保全活動に貢献したいと千葉県協議会に参加させていただきました。微力ですが楽しみながら活動していきたいと思ひます。

—☆—☆—☆—☆—☆—☆—☆—☆—☆—
ある美しいところでした。湾の向こうは鈴鹿山脈が連なり、夕焼けになると湾の水面から、松林・屋根瓦・人の顔から、空気までも真っ赤に染まっていました。

里山と田んぼも豊富にあって、川や水路はドジョウ、フナ、メダカ、カエルなどのメッカで、「かいどり遊び(川を堰止め、水を掻き出し、中を空にして、魚を採る遊び)」にも最高でした。またトンボ、チョウ、セミ、バッタなどあらゆる昆虫に溢れ、「たも網」を持つての昆虫採集は、毎日でも飽きませんでした。

もちろんへび、ヤブカ、ガ、ヒル、ハチも沢山いて、刺されたりもしましたが、物ともせず、日の出から、星の出るまで、友達と群れになって、それこそ土まみれになって遊びまくりました。ややこしく、頭を使うことは大嫌いで、単に大自然にどっぷり漬かっていれば十分でした。現在では、残念ながら日常にこのような自然がなくなってしまいました。行動習性は当時のままとっているのです。

社会に入ってから、長い間高度成長期の真ん中をいやがおうでも歩かされ、その足跡は省略しますが、環境などはとうの昔に忘れてしまっていました。しかし、本能は、生活の中に自然を求めていることは、間違いないことと実感しています。

要するに、趣味も社会活動も無い、単なる団塊世代の企業戦士そのものであったことを弁解した次第ですが、今になって豊かな自然を是非取り戻したいと強く願っている者のひとりです。

千葉の貴重な自然環境を守るために

田島 文忠

1. 自然保護のススメ

ヨシ原などが川の汚れを浄化していくように、自然の浄化能力は図り知れないものがあります。自然は良好であればあるほど、より大きな浄化作用を生みます。ここで環境を貯金にたとえると、生物の生存基盤である自然生態系は元金、自然による浄化作用は利息と考えることができます。元金（生態系）が豊かであれば利息（自然の浄化作用）も大きく、利息の範囲内で社会活動を営むことができれば、地球環境に被害を与えることなく、健全な社会活動が行えます。すなわち、この状態が持続可能な社会ということになります。

ところが、現在の社会活動は、自然の浄化作用を大きく上回る負荷を与えており、利息を使い果たした状態といえます。さらに開発など自然環境の減少により、元金がどんどん目減りしています。元金が減り利息も少なくなった現状から、持続可能な社会を目指すためには、元金を補填し利息を増やすことが必要不可欠です。つまり、自然生態系の保全・再生に向けた働きかけが無くては持続可能な社会の実現は不可能と言えるでしょう。

近年、市民レベルで取り組むビオトープの保全や再生などの活動が盛んになってきました。一人ひとりが関わることでできる事項は小さいかもしれませんが、しかし、多くの方々と連携し、ビオトープのネットワーク作りが進めば、孤立して点に過ぎなかった自然地も踏み石的に線としてつながり、さらに面的な広がりを持つことも期待できます。たとえ小さな活動といえども、やがて、持続可能な社会づくりに貢献できるものになる可能性を秘めているのです。まずは、身近な自然に目を向けることから始めてみませんか。

2. 私たちの活動

私たちは、絶滅の危機にさらされているシャープゲンゴロウモドキと、その生息環境を保全するための活動を行っています。本種の生息地で圃場整備が行われる事を知り、水生昆虫の研究者・愛好者ら有志により、千葉シャープゲンゴロウモドキ保全研究会を立ち上げました。そして、行政や地権者へ生息地の保全を訴えた結果、圃場整備の開始が延期になるとともに、生息地近くの休耕田を代替地として確保できました。

現在は、代替地の保全管理を行うとともに、行政や地権者との定期的な会合において、本種の保全のための検討を続けています。また地元の小学生を対象とした自然観察会を行うなど、啓発活動にも取り組んでいます。



水辺の総合学習

3. シャープゲンゴロウモドキについて

シャープゲンゴロウモドキとは、日本の大型ゲンゴロウの一種で、環境省のレッドリストで絶滅危惧Ⅰ類に指定されている希少種です。生息地は、関東（千葉のみ、東京・神奈川は絶滅）と関西（北陸～山陰にかけての日本海側）で、そのうち関東型（亜種：アズマゲンゴロウモドキ）は、世界中で千葉県のごく限られた場所にしか生息していません。

本種の生息環境は、湧水のある泥深い湿地であり、周囲の環境にも恵まれた自然豊かな水辺です。かつては、このような環境が多くありましたが、それが失われつつあることで、生息が危ぶまれています。

4. 活動の課題と今後の希望

生息地の保全管理が主要な活動になりますが、会員の居住地が広範囲にわたっており、まめな現地対応が行いにくいことが悩みです。お手伝い頂ける会員が増えればと思うのですが、本種には乱獲やそれに伴う環境破壊の恐れがあるため、活動場所を一般公開できません。このような制約はありますが、自然や環境問題に関心がある方にシャープゲンゴロウモドキのことを知って頂き、熱意があり信頼できる仲間を少しずつ増やしていきたいと考えています。

この活動を続けていくことにより、ホトケドジョウが泳ぎ、トウキョウサンショウウオやアカガエルが産卵し、それらを餌とするサシバが飛び回る環境を守ることができます。自然豊かな里やまを地元の皆さんと協力しながら保全し、次の世代に伝えていくことで、生物の多様性保全と持続可能な社会づくりに少しでも寄与できることを願っています。

いつか、子供たちが自然の中で自由に水遊びや昆虫採集ができる日が来ることを祈りつつ。

（千葉シャープゲンゴロウモドキ保全研究会事務局）

本活動は、ちば環境再生基金の助成を受けて実施しています。

「クマ」三題

小角 浩

今年は例年にも増して「クマ」との遭遇による人身事故が多い。雪解け以降、本州だけでも死者一人、怪我人は百人を越すといわれるが、特にこの秋はヒトの生活域における事故が多く異常事態ともいえる。

今次大戦後の拡大造林による広葉樹林の減少がもたらしたエサ不足、里山放置による藪山化に伴う緩衝地帯の滅失、異常気象によるブナ・ミズナラ等の結実不良、度重なる台風接近・襲来によるストレス増大・・・、等々言われるが、ブナ等の結実が年によって大きな差異がある〔生り年〕ことは繰り返されてきていることでもあり、その他の事象も今年に限ったことではなく、諸々の要因が複合された結果によるものであろう。

そのひとつとして、従来の山村における農・林業の衰退による耕作地・施業林の放置・放棄、ひいては廃村にもつながる土地利用の変化、逆説的には野生生物の生息域の復活？とも考えられる。

ところで、自然界のクマは冬眠前に皮下脂肪を蓄えるため、秋の半ばから盛んに雑食性を発揮するが、飼育されたクマは冬眠しない。気温の低下は必ずしも冬眠の必須要件ではないらしい。ヒトの生活域で「学習」を繰り返すと何世代か後には冬の最中にも活動するクマが出現するのでは？の思いが胸をよぎる。

日本に生息する哺乳類のうち、唯一猛獣と言えるのはクマの仲間であり、北海道のヒグマ、本州、四国、九州のツキノワグマである。目下のところツキノワグマの生息数は約10,000～15,000頭と見られるが、特に西日本における地域的な絶滅が危惧されている。このため環境省では紀伊半島以西の地域個体群をレッドデータブックの「特に保護に留意すべき地域個体群」に選定すると共に狩猟による捕獲を禁止している。

直接被害に遭われた方々には同情を禁じ得ないが、明治年間〔1905〕、大台ヶ原北麓で捕らえられた一頭の「ニホンオオカミ」をもって絶滅したとされることも一因となつてか、100年後の今日、棲息密度を超えた「シカ」の食害等による「南限のトウヒ」の枯損進行をみると、生態系の複雑さと同時にその脆弱性、不可逆性に想いを馳せざるを得ない。

10年ほど前、スイスはエンガディンの谷に「スイス国立公園」を訪ねたことがある。言語が輻輳する地域だけに解説文が四段書きになっていることに驚いた。まずこの辺り固有の「ロマンシュ語」そしてドイツ語、フランス語、イタリア語。当時、公園指定80周年記念のパンフレットを頂いた。

その中にあった野生動物に関する記事が記憶に留まっている。中世に「動く万能薬」としてもはやされたスタインベック〔野生ヤギ〕がスイスでは200年ほど前〔1809〕に絶滅した。その後、国王の保護によって生息していた同種のヤギをイタリアから移入し増殖に成功したとあった。

しかし、その100年後〔1904〕の8月1日、スイス最後のクマがミンゲルの谷で射殺された。これが契機となって10年後、「私達は公園に入る時、常に一種の畏敬の念を抱く、此処にはそれ自体のために保護する価値のある自然がある。これらを明確に「利用」よりは「保護」を原則とした公園は、スイスでは他にない」とされるスイス唯一の国立公園が誕生した。

時に1914年8月1日、奇しくも第一次世界大戦勃発の日であった。戦争と平和、殺戮と共存、破壊と保全を暗示していると思うのは私のみであろうか。クマの移入も慎重に検討しているとのことだったが、その後の状況は目下のところ不勉強にして不明である。



足アト図鑑(日経サイエンス社)より

今年6月、アラスカを訪ねた。前半の1週間ははじめて92,000トンのクルーズ船に乗り、バンクーバーからインサイドパッセージを経てアンカレジ外港までグレイシャーベイ国立公園を中心に氷河と大型海棲哺乳類を、後半1週間はアラスカ鉄道を経てデナリ国立公園に人の手が殆ど加えられていない大自然の観察を堪能した。

なかでも、マッキンレー山麓の草原に悠然と行動する子連れグリズリーをジックリ観察できたのは大きな収穫のひとつであった。アラスカ山脈から流れ下る氷河に続く自然河川によって刻み込まれた広大な原野の中、無心にじゃれ合う3頭の小熊と程良い間隔を保ちながら、時折振り返る母熊の表情をピノキユラーの視野いっぱいに見る時、その穏やかな眠差しにはハツと心を打たれるモノを感じた。

お知らせ

1. 千葉商工会議所工業部会の役員改選が行われ、当協議会は常任理事に選ばれた。工業部会は523社から構成され常任理事は83社である。
2. 千葉市民活動センター祭りが来年2月10～12日行われる。当協議会は石黒忠氏が実行委員として参加している。
3. 秋季研修会
11月28, 29日(日、月)
会場：海外職業訓練協会(OVTA)
テーマ「新しい活動及び既存の活動の活性化」
報告：詳細は次号
4. 千葉県総合教育センター
12月7日(火) 同センターにおいて「自然科学公開講演会」が開催される。テーマは「千葉県型環境教育の創造をめざして—NPOに学ぶ—」で、当協議会は講演会に併催するポスターセッションと実験機材の展示をする。環境学習センターが対応。
5. 佐原市環境学習会
12月11日(土) 13:00～15:30
主催：環境省関東地区環境対策調査官事務所
後援：千葉県、佐原市
協力：当協議会
会場：佐原市中央公民館
対象は小学校4,5,6年生と保護者80名募集
報告は次号
6. 会計より報告
協議会宛寄付金・上半期分(2004・4・1～9・30)
263,250円(7名)
田中 和博氏 小関 光二氏 土田 茂通氏
山本 光男氏 二宮 恵氏 國廣 隆紀氏
吉海 照直氏
ありがとうございました。

編集後記：寄稿は広報作成に参加することと捉え、今回は沢山の方が紙面作りに関わったということになり、内容も多彩になったようです。新入会員自己紹介は次号にも登場します。皆様の地域からの発信お待ちしております。

環境カウンセラー全国連合会(ECU)便り

- ☆ 10月16,17日(土、日) 於東京都北区滝野川会館 ECU主催の「介護施設における環境管理指導者」養成講座が開かれた。

環境省関東地区環境対策調査官事務所からも挨拶に見え、北は北海道(3名)、南は鹿児島(5名)から参加し、総勢60名余の参加者があつた。当協議会は6名参加した。

これは神山常務理事が栃木県の介護施設の相談相手となった時、高齢化社会に向かう今後、介護施設にとっても環境管理は避けて通れない問題であると痛感され企画し、テキストの編纂を含め、栃木県環境カウンセラー協会会員の協力の下、立ち上げたものである。

初めてのセミナーでもあり、試行錯誤の点も見受けられたが、有意義なセミナーであった。特に主要な項目、管理項目を書式化し、それをCD-Rに取り込み、データ作成が出来るようにしたのは、秀逸である。今後11月・栃木、12月・鹿児島、その後大分、大阪、長野で開催される予定。

- ☆ 10月30,31日(土、日) 於北海道苫小牧市

ECUと北海道環境カウンセラー協会共催で「環境教育・環境学習指導者養成セミナー」が開催された。

一昨年千葉は初年度開催しているが、今回は「環境教育推進法」が本年10月1日に完全施行されて、初めてのセミナーである点が特筆される。

参加者は70名。5組に分かれたワークショップでは近々こみの有料化が始まることもあり、3組までがこみ問題に取り組んだ。

(本間 格)

記事中の昔の子どもの遊びは道具が不十分だったこともあり純粋に楽しみのためだったようですね。捕っては放しの繰り返し、本当はなかなかつかまらない、殺すことはなく、生き物との付き合い方の加減をこれで習得したのでしょうか。(本間・倉田)

広報 環境カウンセラーちば 第23号 (発行日 2004年12月1日)

発行：特定非営利活動法人環境カウンセラー千葉県協議会(発行責任者：土田 茂通 会員：126名)

ホームページアドレス：<http://www005.upp.so-net.ne.jp/ec-chiba/index.htm>

事務局：千葉市美浜区真砂3丁目18番2棟505号 戸村 泰方

Tel 043-270-6600 Fax 043-270-6601 (各種ご相談、お問い合わせはこちらに)

郵便振替口座：00110-5-34692(加入者名：NPO法人環境カウンセラー千葉県協議会)

編集：広報部 本間格・倉田智子・國廣隆紀・藤田忠宏・林正徳・二宮恵・大山長七郎・松本源寿・

石黒忠・佐藤素子

Tel& Fax 047-445-3208・E-Mail fwkd4421@mb.infoweb.ne.jp(寄稿先) 古紙100%再生紙使用

広報

環境カウンセラーちば

第24号
特定非営利活動法人
環境カウンセラー
千葉県協議会

環境カウンセラーは、環境省に認定された環境の専門家です。
環境調査、環境管理・監査、廃棄物対策、環境教育・学習などお気軽にご相談下さい。

佐原市「子どもと一緒に環境学習の会」

土田 茂通

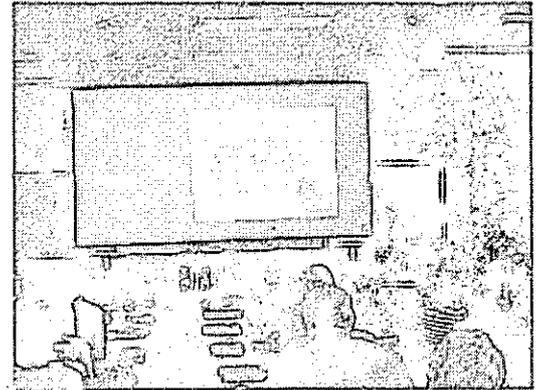
掲題の学習会が平成16年12月11日に佐原市中央公民館において環境省関東地区環境対策調査官事務所主催、千葉県と佐原市が後援して開催された。環境カウンセラー千葉県協議会は協力して企画運営並びに講師の派遣を行った。当日は児童17名、保護者8名、教員6名及び佐原市環境保全推進関係者18名など総計69名の参加を得た。

開催に先立ち主催の環境省より松本次席地方環境対策調査官が「今回は、最近よく耳にする地球温暖化についてみんなで一緒に考えてみましょう。」と挨拶された。次に後援の千葉県環境生活部を代表して森環境政策課長が、佐原市を代表して経済環境部環境保全課の杉本課長がそれぞれ挨拶された。

3テーマに分かれて学習会を開始する前に導入部を土田が担当、映像で地球温暖化現象の紹介、気温上昇に伴う心配される事象などを話した後、危惧される海面上昇の実験を仕掛け、学習会の最後に結果を確認できるようにスタートさせた。学習会最後に、氷が溶けた時「南極大陸（陸地の氷）モデルは水面が上昇し、北極海（水に浮かぶ氷）モデルは水面が変わらない」なる現象を参加者全員で確認した。



二酸化炭素に関する楽しい実験風景



地球温暖化現象を映像で説明

二酸化炭素を知ろう

辻川 毅

この学習会で、われわれのグループは“二酸化炭素について知ろう”というテーマで温暖化の大きな要因物質である二酸化炭素(CO₂)は、どうして発生するのか、その性質はどの様なものかを実験を通して学習してもらいました。今回の学習会における実験は次の3種類を当協議会の地球温暖化対策センターのメンバー（実験は藤田、真鍋、辻川が担当）の解説のもとに、参加者の方々が一緒に実施した。

- ① ローソクを燃やしたとき、灯油やガソリンを燃やしたとき、また人間が呼吸するときが発生することを、精密な二酸化炭素分析装置を使用して測定する。
- ② 石灰水（水酸化カルシウム）に炭酸水（サイダー、コーラ等に含まれる二酸化炭素ガス）を加えて白濁した水の性質（pH）を、リトマス試験紙を用いて確認する。
- ③ 天秤棒の両端につるした容器の片側に、二酸化炭素ガスを注ぎ重さを量る。

参加の子どもたち、保護者、環境保全活動者の方々は、このような身の回りの簡単な実験材料を用いた実習を中心とした学習会は今まであまり経験がなく、よく理解できたとの感想を述べられ、担当したわれわれも今後他の地域でも開催していきたいと意気に燃えている次第です。

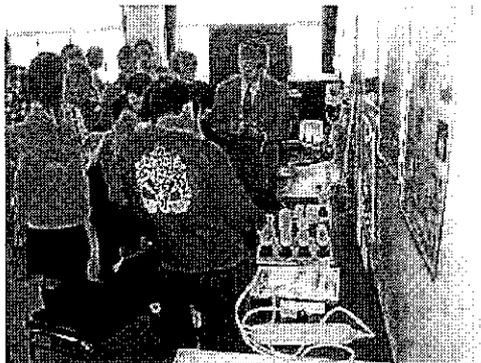
電気を節約しよう

林 正徳

1. 小型の手回し発電機により20w白熱球を点灯、動物としての人間の発電能力の大きさと我々の消費エネルギーの大きさとの違いを理解する。
2. 電力計を使用して待機電力の大きさを測定し、コンセントを抜く(エコタップ)必要性を理解する。
3. 電流計を見やすい位置に掲示した表示板(千葉市より借用)を使用し、同じ明るさの各種照明機器(白熱灯、電球型蛍光灯、ダイオード)の消費電流を示し、技術の進歩を訴える。

の3項目で実施、各々パネルを掲げました。

実験の結果、2. は電力計がうまく作動せず、具体的に数字を示す事が出来ませんでした。パネルを利用してなんとかお茶を濁しましたが、説得力、迫力に欠けたことは否定できません。1及び3はうまくいったと思います。特に3は小関さんからご提供いただいた数種のダイオードランプ、阿部さんの丁寧な説明のお陰で感嘆の声もあがり、皆さんが理解を深めていただけたと思います。



消費電力の違いを計器で知る

ミニミニ情報

電気のこと

- ◁ 電力計が作動しなかったため、迫力を欠いたという待機電力の測定・一体どのくらいの消費量なのでしょう。
- ◁ 消費電力量の約1割は待機電力、その4割をビデオ、オーディオ、ガス給湯器が占めると言います。
主電源を切ることも忘れずに!
- ◁ 街中の信号機の消費電力・・・従来の信号機は、最大80W、ダイオードに換えるとおよそ1/10ですむそうです。

ところで家庭部門のCO2排出量は1億6600万トン、産業部門(4億6800万トン)の約1/3ですが、90年比で28.8%も増えました。同じ期間に1.7%減らした産業部門と比べると急増ぶりが目立ちます。法律で個人の生活を規制することは難しく、一人ひとりの「心がけ」に頼るしかないようです。
(T・K)

ゴミを減らそう

大山長七郎

市民生活の中で、ゴミを減らすことは地域の環境行政改善に寄与し、ごみ焼却によって発生する二酸化炭素による地球温暖化防止に大変効果がある。可燃ごみ1kg減量によって0.84kgのCO2の発生を防止することが出来る。

今回千葉県下の自治体として第1号の開催地となった佐原市の「こどもと一緒に環境学習の会」に、廃棄物センターとして協力した。

ゴミをいかにして減らすかについて目の前で分別、3Rを実習した。特に古紙として回収できる雑紙、棒状ダンボールの板紙再生、空き缶からのアルミ、鉄の分離、家庭用アルミ箔の回収、ペットボトルのキャップはずし、潰し方、更に牛乳パックの洗い方、開き方などについて実習した。

市民が生活する地域環境を良くするため、空き缶、ペットボトル、ごみ類のポイ捨てをしないこと、させないことが大切であることをPRした。

ゴミ実物を使って分別処理を学ぶ



まとめ

國廣隆紀

日常、切実な問題としてとらえにくい地球温暖化を実験により、身近に感じてもらうための企画である。

参加人数は80名程度と予定し準備したが、地域の各種行事と重なり、児童とその保護者の参加は25人となった。その為に3テーマについて児童たちに十分理解して頂けたと考えられるが、もしも予定通りの参加人数であれば実験器材を身近にする時間も短くなり理解不足になったとも感じた。

実験のあと参加者が集まり、つぎの事項を確認した。

- 1) 二酸化炭素のことが、わかったかな。
- 2) 目には見えない電気のことをわかったかな。
- 3) ごみの種類を知って少なくすることができるかな。

参加者全員が目を輝かせて説明を聞き、実験に取り組んでくれただけに理解が進んだことが分かった。そして、地球温暖化を少なくするために「家庭でできる10の取組み」を示し、各自の生活を振り返ってもらった。

地球温暖化は誰もが重要なことと認めながら、具体的なライフスタイルの変革に取り組めない今日、このような環境学習を継続していきたいと思う。

エコアクション21(EA21)

EMS 支援センター幹事 西田 啓作

環境マネジメントシステムとしてのISO14001は認証費用が高い、環境パフォーマンスの報告が求められていない、等の問題が指摘されて来ました。一方環境省は数の上では圧倒的多数を占める中小企業が、これに取り組み易いプログラムとして平成8年以降「環境活動評価プログラム」とそれに続く旧「エコアクション21」を推進して来ましたが、平成16年4月、安価な認証制度を含めて新「エコアクション21」を発表し、中小企業ばかりでなく、学校、病院などの各種事業者の参加を呼びかけています。又、この推進事務局として、(財)地球環境戦略研究機関持続性センターが指定されました。

当環境カウンセラー千葉県協議会としては、EMS支援センターを中心にこの普及促進に是非一役買いたいとの強い意欲があり、準備中です。差し当たり、①EA21普及・促進の為にセミナー、講習会、説明会を県内各地で開催する。事業者あてのアンケートも考えている。

②受審事業者からコンサルタントや審査人の紹介・斡旋依頼があった場合に派遣する。

皆さんのお知り合いで、EA21について相談に乗って欲しいと言う方が居られましたら、EMS支援センター(二宮：0436-61-2083 又は西田：047-341-8327)にご連絡ください。

秋季研修会の結果とまとめ

事業部 茂利 晃

昨年春、実施した会員活動アンケートで「今後、会員としてやりたいこと」を会員全員にお聞きしました。その結果以下のようなテーマに整理されました。

この度、その具体的な内容と進め方について、昨年OVTAで開かれた秋季研修会で検討した結果をまとめ、以下に紹介します。

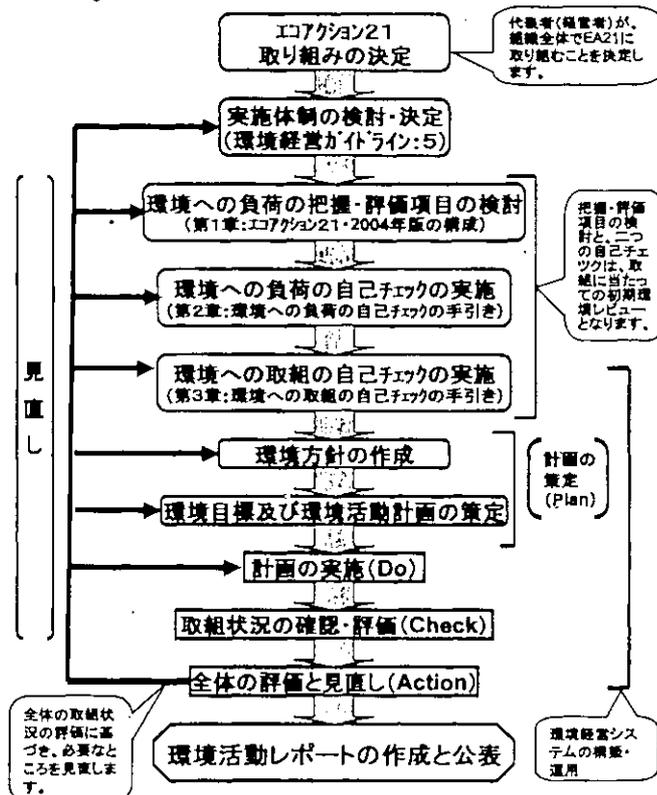
1. エコアクション21の推進

エコアクション21の地域事務局をEC千葉県協議会が技術的な立場から、千葉県環境財団と協力して立ち上げる方向で、EMS支援センターが中心となって進める。

2. 水環境研究会

水環境問題について、今後どのような方向で活動していくかを水環境研究会を立ち上げて検討していく。水問題は幅広く多岐にわたるため、EC千葉県協議会の活動内容の発表会等を開催し、テーマを絞り込む。本研究会は事務局が中心となって進める。

エコアクション21の取り組みフロー



3. 環境公開講座の開催

環境公開講座を新規に立ち上げ、年に4回開催し、事業部、事務局が協力して進める。

4. 介護施設の環境改善

新しいテーマとして、来年度はEC千葉県協議会内部でECUのセミナー受講者(6名)を中心にしてレベルアップを図るための勉強会を行う。このテーマは環境公開講座に盛り込む方向で進める。

5. 環境教育・学習

来年度は、ある中学が選択科目の理科で地球温暖化をテーマに開催する予定で、これには環境学習センターが中心となって対処する。

6. 環境教育推進法の人材認定事業登録

環境教育推進法の人材認定事業登録について、地球温暖化対策センターやEMS支援センターの活動を人材認定事業に係わる登録要件を満たすように、各センターと事務局が中心となって検討を進める。

世界遺産と公害輸出

大木 久光

1. 世界遺産と歴史

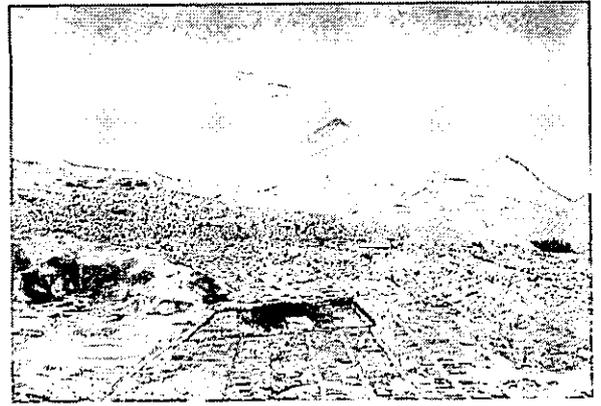
南米ボリビア共和国南部ポトシ県のポトシ市は、セロ・リコ・デ・ポトシ山（‘ポトシの豊かな山’の意、標高 4,800m）の裾野にへばりつくようにしてたたずむ人口 12 万人の町である。町自体も標高が高く、中心にあるポトシ駅でも富士山より約 200m 高い標高 3,960m と表示され、町全体が東から西へ傾いた斜面に横たわっているために標高が高い東部の 4,250m から西部の 3,750m と 500m の標高差がある。このセロ・リコ・デ・ポトシ山が麓のポトシ市と共に 1987 年に世界遺産に指定されている。

このセロ・リコ・デ・ポトシ山は、インディヘナの羊飼いが羊を追いながら一休みしたところ、足元に光る石を見つけたのが発端で、1545 年にスペイン人がこれに目をつけ銀採掘を開始し、16 世紀半ばにはポトシは世界有数の鉱山町となったと言われている。17 世紀から 18 世紀にかけて世界有数の銀山で、当時のスペインの銀貨の 8 割近くをまかなったと言われ、ポトシ市内には当時の造幣局が、博物館となって残っている。銀採掘で始まったセロ・リコ・デ・ポトシ山の鉱山業は 20 世紀初頭には錫（すず）生産に移行し、同山を含むボリビア国のアンデス地帯はタイ・マレーシアと並んで世界有数の錫生産を誇っていた。しかし、1980 年代半ばに発生した国際取引価格の大暴落で多くの錫鉱山が閉鎖を余儀なくされた。幸いにも、セロ・リコ・デ・ポトシ山には、鉛や亜鉛も埋蔵されていたため、鉛・亜鉛を対象に採掘が移行し、ポトシ市内および近郊にあるインヘニオと呼ばれる工場で分離回収され今日に至っている。

ちなみに、標高 4,000m の高地では、気圧が平地の 2/3（酸素が平地の 66%）しかなく、お湯が 86℃で沸き、激しい運動が出来ないと調理に苦勞し、圧力釜が無いとご飯が美味しく炊けません。

2. 鉱害の輸出

インヘニオで鉱石が処理される過程で出る廃液が処理不十分な状態でポトシ市内を流れるリベラ川へ放流されている。そのリベラ川は、ポトシ県南部を横断するピルコマヨ川へ流入する。このピルコマヨ川はポトシ県南部に国境を接するパラグアイ共和国へ入り、パラグアイ西部、アルゼンチン共和国との国境沿いを流下し、アルゼンチン国内でパラグアイ川と名を変えながらアルゼンチン国北部を南下し、最後は、アルゼン



セロ・リコ・デ・ポトシ山とポトシ市



ボリビアーパラグアイーアルゼンチン

チンの首都ブエノス・アイレス市の郊外を流れながらラ・プラタ川と名を変え大西洋へ注ぐ。すなわち、ポトシの鉱業活動がリベラ川汚濁を引き起こし、河川水の移動に伴うパラグアイ、アルゼンチンへの鉱害の輸出となっている。

パラグアイおよびアルゼンチンからのクレームを受けてボリビアは三国委員会を設置し、ポトシ県の南部パラグアイおよびアルゼンチンとの国境近くの町で毎年 2 回、委員会を開いて対策を検討している。日本は、国際協力機構（JICA）が、2001 年 6 月にポトシ市に鉱害環境研究センターを設置し、2006 年 6 月までの予定でこの問題に協力して取り組んでいる。

3. 他地域での公害越境

公害の越境の問題は、国境を接している国々、河川が複数の国々を跨っている地域では珍しいものではない。河川水質汚濁の欧州での例を挙げると、ルーマニア北西部のバイア・マレ地区にあるバイア・マレ金鉱山の廃滓堆積場が 1995 年に崩壊し、近傍を流れる河川を経由して大量のシアンがチサ川へ流入し、チサ川水質のシアン汚染を引き起こし当時は多量の魚の死骸が浮上したと報道され大問題となった。汚染されたチサ川は、ルーマニア西部に国境を接するハンガリーおよびセルビア東部を南下するダニューブ川へ流れ込み、

そのダニューブ川はブルガリア北部を東進し最後は黒海へ流入し、黒海の水質汚濁につながった。

公害の越境は必ずしも国境を接している国々、河川複数の国々を跨っている地域にだけ起こる問題ではない。ドイツや英国の工業活動に伴う酸性雨によるスカンジナビア諸国の森林破壊（1970年代）等是有名であるが、周りを海に囲まれたわが国も安穩とはしておれない。

硫黄分が高い石炭を原料とした中国の石炭火力発電が原因とされる酸性雨による山陰地方の森林破壊、黄砂等自らの環境保全対策と平行して諸外国の環境保全対策にも注力していく必要がある。中国への援助—ODA に関しては、重慶の問題以来賛否両論があるが、石炭火力発電に関しては、排煙脱硫装置、石炭液化技術、代替エネルギー等の技術協力が進められている。

私たちの子、孫たちから、負の遺産と言われたい、生きた環境を保つために私たちが今何をなすべきか大きな課題である。

♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪

世界遺産は「国境と世代を越えた共通の宝物」「保護活動を通じてめざす世界平和」とユネスコより提唱されている。

♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪

すぐれた普遍的価値をもつ建築物や遺跡などの文化遺産（611）とすぐれた価値を持つ地形や生物、景観などを有する地域の自然遺産（154）、そして文化と自然両方の要素を兼ね備えた複合遺産（23）、その数は2004年7月現在で134カ国・合計で788になります。

日本には文化遺産 10、自然遺産 2がありますが、第一号の認定は1993年のこと、今回寄稿いただいた南米ボリヴィアは1987年、その歴史と大いなる自然、さらに人間の経済活動が引き起こす環境汚染、そして改善に努力する人々など、興味深い記事です。

| | | |
|-------|----------------------------|-------|
| ΦΦΦΦΦ | 日本の世界遺産 | ΦΦΦΦΦ |
| 1993 | 法隆寺地域の仏教建造物・姫路城 屋久島・白神山 | |
| 1994 | 古都京都の文化財（京都市・宇治市・大津市） | |
| 1995 | 白川郡五箇山の合掌作り集落 | |
| 1996 | 原爆ドーム・厳島神社 | |
| 1998 | 古都奈良の文化財 | |
| 1999 | 日光の社寺 | |
| 2000 | 琉球王国のグスク及び関連遺産群 | |
| 2004 | 紀伊山地の霊場と参詣道 | |



崩落した廃滓が河川に流入



ルーマニア—ハンガリー—セルビア—ブルガリア

—KKKKKIIIIIDDDDDSSSSSIIIISSSSSOOOOO—
キッズ ISO

千葉県では東金市と鎌ヶ谷市が導入しています。1月12日東金市の EC 猪坂玲子さんの実践例を環境学習センターの企画で見学しました。

地球温暖化防止の DVD と日頃の保全活動から、東金での異変—について東金東小の 5 年生 113 人に話をされました。その後、キッズ ISO のインストラクターがテキストに従って家庭における電気、ガス、水道のメーターの見方、記入の仕方の説明をしました。

キッズ ISO は家族で取り組み、親子の会話の機会を得る効用をも目論んでおり、また 2 週間でエネルギーの削減結果が見える効率の良いプログラムです。ただ非公開であること、また費用がかなり高額で、普及には限界があると感じました。ワットナビやエコワットの活用のしかたで十分対応できるので、EC・事業者部門の方々の腕の奮いどころということでしょうか。

猪坂さんは身近な自然を体験しながらの地球温暖化防止行動を提唱しており、その考え方、行動には共感しました。
(倉田 智子)

新入会員の自己紹介

◎ 荒井 薫 (あらい かおる) 事業者部門・市川市千葉県。1969年工学部化学工学科卒、同年石油化学メーカーに入社、現在に至る。環境安全部に所属。カウンセラーには勤務地の東京で登録、千葉県協議会の知人の紹介で当協議会に入会しました。この一年間多忙を理由に活動をしておりませんが、得意はPRTR、有害大気、環境会計などです。環境教育に興味を持っています。よろしくお願い致します。

◎ 有光 忠夫 (ありみつ ただお) 船橋市機械系の技術屋で、平成16年ベアリング(軸受)会社を定年退職。千葉県協議会には昨年9月に入会。約半年、最初は自分なりに「環境問題全般」について情報収集をするために、各種講演会、シンポジウムおよび展示会に参加して来ました。これからは、当協議会の方針に基づいた具体的な活動に参画しなければと思っています。技術者魂はまだ残っております。皆様のご指導の元、活動していきたいと思っております。

◎ 上西 忠 (じょうにし ただし) 市民部門・白井市北海道。1972年東京都下水道局に勤務。「下水道問題連絡会議」のメンバーとして、労働組合の役員として、下水道・水道問題を中心に活動する。'99年：「白井市こんなまちにしたいな会議」委員(環境部会)。'00年：しろい環境塾設立に参加。白井市環境基本計画策定委員。NPO法人しろい環境塾事務局長。市民活動、下水道・水道問題、里山保全、まちづくり。里山を担う農家とニュータウンの住民をむすび、里山を生かしたまちづくりを進めたい。

◎ 星野 高士 (ほしの たかし) 事業者部門・千葉市群馬県。日本大学理工学部建築学科卒、アジア海洋(株)技術開発室、国際気象海洋(株)技術部勤務。現在、(株)環境形成研究所技術部勤務。技術士(水産部門)、一級建築士・一級土木施工管理技師、一級造園施工管理技師、潜水士。水域及び海域環境保全、地域計画、新エネルギー・省エネルギー問題を得意としてきました。水域環境、特に海域における環境問題に関心があり、水質汚染及び生物系への影響等に関わるテーマを行っており、京都議定書の発効にともない地球温暖化、二酸化炭素削減等に関わる活動したいと考えています。

千葉市民活動センター祭り

石黒 忠

2月10日(木)～12日(土)の3日間「千葉市民活動センターまつり」が千葉中央コミュニティセンター1&6階で開催されました。まつりの目的は各団体の活動を市民に知っていただくとともに、団体相互の連携や情報交換を図ることです。昨年9月に千葉市から委託された実行委員会〔19団体〕が展示、模擬店・バザー、体験コーナー、相談・講座、ミニコンサートなどの企画をたて準備してきました。当日は、市民活動センターを活動拠点としている41団体(登録団体は約260団体)が出展、約1000人〔うち出展団体の延べ500人含む〕が来場、盛況のうちに終了しました。EC千葉県協議会も、月例の理事会等で利用している施設であることから、実行委員会の段階から参画し、お祭り当日も茂利事業部長をリーダーに約7名の会員の方々が日頃の活動状況をまとめたパネルを展示・説明し、祭りを盛り上げました。後日開催された反省会では、第1回目として予想以上の反響であり、来年度も是非開催したいとの意見が大多数でした。

「もったいない」を忘れた日本人

本間 格

環境関係で初めて「ノーベル平和賞」に輝いたケニア副環境相、ワンガリ・マータイさんが3月4日国連本部の「国連婦人の地位向上委員会」で、2月来日時に覚えた「もったいない」を、キーワードに「女性たちによる世界的もったいない」キャンペーンを展開し、資源を効率良く利用しましょう」と訴えた(3月5日毎日新聞・夕刊)。

この記事を読み、この言葉の意味を忘れていた本家本元の日本人が多いのではないかと反省させられた次第です。資源小国の日本が限りある資源を金にあかせて、買いあさり、大量生産、大量消費、大量廃棄を行ってきた現状を憂慮するばかりです(最近見直そうという動きはありますが)。

日本を含めた先進国の影響が世界中に広がっていることを認識することから、原点に戻って「もったいない運動」を進めることでしょうか。

我々年代はその気になれば、戦中戦後の耐乏生活の経験者ですから、実行できる筈です。豊かな時代に生まれ育った人々に如何に伝え、実行に移せるかが、環境教育の一環だと思いました。

新聞記事にあった、ナイジェリア代表団の女性が「男性は物を使って当然と思うが、女性は資源枯渇や環境問題に敏感だ。私の国でも、もったいない文化を女性の間にも広めたい」と語った。を閉めたいと思えます。

印旛沼・手賀沼水質協議会の研究会に出席して

大山長七郎

2月25日、手賀沼親水広場「水の館」で開催された印旛沼水質保全協議会と手賀沼水質浄化対策協議会共催の研究会に出席した。平成15年7月より印旛沼水質モニターとして四街道市内を流れる手繰川、小名木川の2河川を担当していることから関心を持って参加した。

県農業総合研究センターの松丸室長から「農地の窒素と環境保全型農業」について聞いた。農業に必要な窒素肥料は適量の施肥が重要であり、オーバーになると硝酸性窒素となって1年間に1%の割合で地下に浸透するので農産物にムダなく適切な量を吸収させることが地下水汚染を防止する上で大切等の話があった。

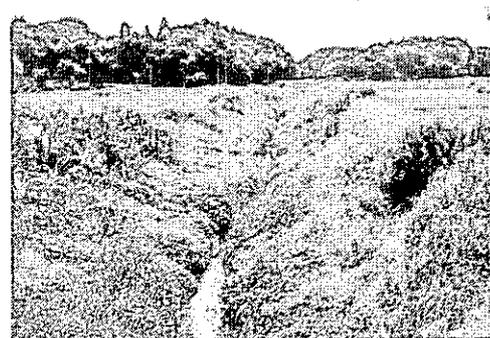
次いで前千葉敬愛短期大学学長の堀田氏から「湧水とその涵養域に棲む生き物たち」について話があった。各地で水の汚染によって、ハゼ、カエル等の奇形生物が見つまっている。それは汚れた家庭排水、保全林の涵養不足、水の地下浸透不足による湧水不足、廃棄物の不法投棄による有害物含有の汚染水によって湧水地が汚染されていることが原因と思われる。ビオトープも大切であるが自然の中で湧水地が保護されることが大切である等の話があった。

私の記録では平成12年10月28日10時、いつものように手繰川流域の不法投棄パトロール中、川に油膜が流れているのを発見している。下流は西印旛沼で、印旛郡広域市町村(7市1町1村)が組合を作って水道水を供給している。印旛沼は水道水源として水質ワースト1で知られるが、人口増加による生活排水の流入、更に農業県として畜産業を含む産業排水の流入が水質悪化を助長している。一つの河川が汚れると湖沼の水質を元に戻すことは長い日時が必要となる。流域の一人一人が河川を汚染しない努力が必要である。古老に聞いた話では、農作業の昼時、川の水を飲んだ時代もあったのである。

昨年末環境省が発表した平成15年度の水質は(千葉県関係)河川ワースト1が春木川、湖沼はワースト5が印旛沼(前年より少し改善された)であった。

6月になると水道週間がありますが、私たちは毎日水を飲み、排水しています。生活の中での水環境にもっと関心を持つことが必要です。水郷佐原で生まれ、少年の頃利根川の水や山の清水を飲んだことを思うと、身近な水辺を生き物が生きる場にする努力が必要と感じた一日でした。

(編注)水道水供給の役割を持つ印旛沼では、昨年より印旛沼緊急提言がなされ、行動する市民が求められています。大山氏は廃棄物対策センター長として啓発事業にご活躍ですが、印旛沼水質モニターでもあられることから寄稿をお願いしました。



手繰川・上流はこんなに牧歌的♪

京都大学主催の市民講座に講師を派遣

京都大学21世紀COE第37回市民講座が3月19日に千葉県教育会館で開催された。この市民講座は京都大学大学院の教授が講演する2演題を中心に、地元市民より1演題を加えて構成し各県で開催されている。当協議会は千葉県環境政策課からの講師派遣の要請を受け、土田理事長を講師に派遣した。

最初に吉川教授より文部科学省にて採択された京都大学21世紀COEプログラム「環境調和型エネルギーの研究教育拠点形成」では、環境調和型エネルギーシステムを構築・提言していくことを目的していると説明があった。

引き続き、主題「身近なエネルギーと環境を考える」を基に、吉川教授の「太陽光発電の未来」、土田理事長の「加速させよう！家庭の省エネ推進」、石原教授の「廃棄物とエネルギー」の3講演が行われた。講演に引き続き50分間の総合討論が3講師と参加者の間で活発に行われた。当協議会からも9名参加した。

「太陽光発電の未来」では太陽電池の現状と開発状況、次世代太陽電池の見通しや未来の宇宙太陽光発電の可能性、2030年までの太陽電池の開発実用化(7円/kwh)のステップについて説明が行われた。

「加速させよう！家庭の省エネ推進」では家庭におけるCO2削減の実践として、環境負荷の洗い出し、省エネ実践開始のきっかけ、ライフスタイルの見直し、管理のサイクルPDCAを廻す、省エネ効果はCO2を把握し費用削減で楽しむ、以上をサブテーマにして省エネ実践の呼びかけを行った。

「廃棄物とエネルギー」では、統計により国内におけるごみの現状と問題点を説明し、環境に関する法律に触れ、リサイクルの現状と傾向、循環型社会への移行やライフスタイルの変更等廃棄物より考察できる幅広い解説を行った。食品別に熱量1kcalに対し、生産するのにエネルギーは何倍必要かをデータで示し問題点を明らかにした。(広報部 本間 格)

第3回通常総会等のご案内

NPO 法人環境カウンセラー千葉県協議会の第3回通常総会を定款第24条により下記のように開催します。

1 日時：平成17年5月29日（日）
13時～16時45分

2 場所：千葉市民会館

Tel 043-224-2431

3 内容：①総会議事（第1～4号議案）

②特別講演会：総会后同場所で講演会を開催
演題：「バイオマス活用技術の現状と展望」

講師：袖山 義人 氏（農学博士）

（独）農業工学研究所資源循環研究室長

③懇親会 場所：千葉市中央区新千葉1-1-1

千葉駅ビル5階・ペリエホール

（新入会員歓迎会を兼ねます）

時間：17時～19時 会費5000円

4 案内：4月25日頃、往復ハガキでご案内します。

お知らせ

《訃報》

遠藤晶久氏（白井市）

昨年10月、病気で他になりにました。

ここに謹んで哀悼の意を表し、お知らせ致します。

《会計より》

（10月以降 3月6日までに頂いた寄付）

171,350円

山本光男氏 平野宏明氏 林 正徳氏
三須一芳氏 土田茂通氏 戸村 泰氏
吉海照直氏

☆ありがとうございました☆

環境カウンセラー全国連合会(ECU)便り

昨年12月、ECU協(議)会から代表者が参加し、今後の活動方針、意見交換などをするための討論集会が開かれた。

その結果、第1分科会（政策提言、運営方法など）、第2分科会（環境教育）、第3分科会（新EA21を含む環境管理）を立ち上げ、各分科会を最低月1回開き検討していくことにした。

この会議では次のようにまとめた。

1. 情報交換をこまめに行う。
2. 事務局の強化（常駐事務局員が必要）。
3. 各省庁との連携を如何に保っていくか。
4. 政策提言をする（第1分科会）
5. 環境教育は新たなテーマに挑戦（第2分科会）
6. 新EA21は営業活動が必要（第3分科会）

その後、各分科会はそれぞれ3回分科会を開いている。

（本間 格）

編集後記

京都議定書発効前後、にわかに動きが活発になってきました。ケニアのマータイさんが日本で覚えた「もったいない」キャンペーンを地域でも展開しよう！3RにRepair（修理・修繕）を加え4Rにしよう！土田さんの実践に基づいた「温暖化防止活動」の発表、大山さんの水環境にも関心を持たれ活動されていることに触発され、これらの記事を掲載しました。また大木さんには世界的視野に立ち、まだ公（鉦）害がなくなる実態を寄稿していただきました。今後も会員の皆様の地域の活動状況をお寄せくださいますようお願い致します。（本間）

別れと出会いの季節—春 花粉症に悩んだ日々も、この号がお手許に届く頃は☆桜 ☆さくら☆サクラが満開！新年度が始まります。次号もご協力のほど、よろしく願い致します。（倉田）

広報 環境カウンセラーちば 第24号（発行日 2005年4月1日）

発行：特定非営利活動法人 環境カウンセラー千葉県協議会（発行責任者：土田 茂通 会員：123名）

ホームページアドレス：<http://www005.upp.so-net.ne.jp/ec-chiba/index.htm>

事務局：千葉市美浜区真砂3丁目18番2棟505号 戸村 泰方

Tel 043-270-6600 Fax 043-270-6601（各種ご相談、お問い合わせはこちらに）

郵便振替口座：00110-5-34692（加入者名：NPO 法人環境カウンセラー千葉県協議会）

編集：広報部 本間 格・倉田智子・國廣隆紀・藤田忠宏・林 正徳・二宮 恵・大山長七郎・松本源寿・石黒 忠・佐藤 素子

Tel& Fax : 047-445-3208・E-Mail fwkd4421@mb.infoweb.ne.jp（記事寄稿先） 故紙100%再生紙使用

広報

環境カウンセラーちば

第25号

特定非営利活動法人
環境カウンセラー
千葉県協議会

環境カウンセラーは、環境省に認定された環境の専門家です。
環境調査、環境管理・監査、廃棄物対策、環境教育・学習などお気軽にご相談下さい。

新年度のスタートにたって

理事長 土田茂通

5月29日開催されました平成17年総会に於いては会員の皆様の多大なご協力を得て、新年度の活動方針や予算ならびに新理事のご承認を頂いたことを感謝いたします。NPO法人になり2年が経過し、これからの2年間は新体制で臨むこととなりますが、会員の皆様にはなお一層のご協力の程お願い致します。

また、2004年度環境カウンセラーとして環境省に登録され、当協議会に入会された6人の新環境カウンセラーと2人の環境カウンセラー候補者の皆様を心より歓迎致します。当協議会が行う種々の行事に対して積極的にボランティア精神で参加し、従来からの会員たちと交流を深め、種々な提案や意見を出して、それを実現するために心意気を感じる活動で汗を流そうではありませんか。

本年度の事業計画には昨年までの事業に加えて新企画が多く組み込まれています。例えば、EA21普及活動、内部監査員養成講座、公開環境講座、高校の環境講座などです。新企画の立上げの難しさを5W2Hで作成した実施計画書で明確化し、計画書にそって自信をもって遂行し、終了後には関係者全員で反省を行い修正すべき事項を明確にして、実施計画書を改良して次回に備えるなど管理のサイクルPDCAを確立しながら進めて行きたいと考えています。会員の皆様には各界で経験してきたKnow Howを提供して頂き、当協議会のソフトの財産を蓄積していきたいと考えています。直接携わる責任者や関係者には大変ご苦勞をかけることとなりますが、永続・発展する私たちの協議会を盛り立てて行くために宜しくお願い致します。



理事長・新年度抱負を述べる

新年度の活動のために

本間 格

ECが期待されていることをECU総会時の環境省環境教育推進室長・渋谷氏講演より拾ってみました。今後の活動の指針になれば幸いです。

1. 「我が家の環境大臣」事業にEC協議会として団体参加、併せてEC個人が制度やホームページの内容などを理解するためにも率先して参加しよう。
(<http://www.eco-family.jp>)
秋以降登録加入団体からの要請があれば環境学習にECを派遣する制度が設けられる予定。
2. こどもエコクラブは地域で多くのこども達に参加してもらえよう、協力しよう。
3. 地方環境パートナーシッププラザを活用しよう。
自然保護事務所と地方環境対策調査官事務所の統合が今年10月に行なわれ、地方環境事務所として北海道、東北、関東、中部、近畿、中国・四国、九州の7ブロックに配置される。該当事務所と連携をとり、環境活動に取組もう。
4. 学校のエコ改修・環境教育について
モデル校では建築研究会と環境教育の研究会を立ち上げ公募するので事業者部門(建築・整備関係)、市民部門(環境教育)の方は積極的に参加しよう。

<平成 17 年度総会>

事務局長 服部 達雄

第3回通常総会が平成17年5月29日に千葉市市民会館会議室において開催された。当日は会員総数127名に対し、86名の出席（うち、委任状41名）があり、定款第24条による通常総会として成立した。

戸村事務局長の司会により、議長：土田茂通理事長、書記：河井恵子氏・二宮恵氏、議事録署名人：國廣隆紀氏・服部達雄氏を選任し、次の議案を審議した。

- (1) 第1号議案「平成16年度事業報告ならびに決算報告」
- (2) 第2号議案『平成16年度監査報告』
- (3) 第3号議案「平成17年度事業計画案ならびに予算案」
- (4) 第4号議案「役員を選任」

(理事)

阿部邦夫、石黒 忠、大木久光、大山長七郎、小野鈴子、國廣隆紀、倉田智子、種本利治、辻川 毅、土田茂通、戸村 泰、二宮 恵、西田啓作、野口康男、林 正徳、服部達雄、古畑義正、本間 格、茂利 晃、吉海照直

(監事)

廣川一男、藤田忠宏、鈴木茂夫

(顧問)

小角 浩、村上利子、荒野詰也、有馬富穂

平成16年度は、NPO法人として2年目になり、活動が着実に進展し、外部での認知度も高まり、環境教育などでの協力依頼、外部委員への就任要請が増加してきた。これらに加えて平成17年度にはEA21制度の本格的運用がはじまることから、当協議会活動が一段と拡大し、活発になるものと見込まれる。



講演会風景



熱心な討議

[平成17年度役職一覧]

| | |
|------------------|--------|
| 理事長 | 土田茂通 |
| 副理事長(EC-Chiba担当) | 國廣隆紀 |
| 副理事長(ECU担当千葉代表) | 戸村 泰 |
| 事務局長 | 服部達雄 |
| 事務局次長 | 野口康男 |
| 総務部長 | 古畑義正 |
| 総務部副部長 | 種本利治 |
| 総務部副部長 | 吉海照直 |
| 事業部長 | 茂利 晃 |
| 事集部副部長 | 石黒 忠 |
| 広報部長兼 ECU 担当 | 本間 格 |
| 広報部副部長 | 倉田智子 |
| 情報部長 | (國廣隆紀) |
| EMS 支援センター長 | 二宮 恵 |
| EMS 支援副センター長 | 西田啓作 |
| EMS 支援副センター長 | (林 正徳) |
| 地球温暖化対策センター長 | 辻川 毅 |
| 地球温暖化対策副センター | (服部達雄) |
| 地球温暖化対策副センター | 大木久光 |
| 廃棄物対策センター長 | 大山長七郎 |
| 廃棄物対策副センター長 | (石黒 忠) |
| 環境学習センター長 | 林 正徳 |
| 環境学習副センター長 | 阿部邦夫 |
| 環境学習副センター長 | 小野鈴子 |

| | |
|----|------|
| 監事 | 廣川一男 |
| 監事 | 藤田忠宏 |
| 監事 | 鈴木茂夫 |

| | |
|----|------|
| 顧問 | 小角浩 |
| 顧問 | 村上利子 |
| 顧問 | 荒野詰也 |
| 顧問 | 有馬富穂 |

第3回通常総会終了後、現在山田町で計画が進んでいる農水省のプロジェクト「千葉県北東部におけるバイオマス多段階利用システムの構築及び実証に関する研究」を統括している柚山義人氏にご講演頂いた。

バイオマス利活用技術の動向と展望

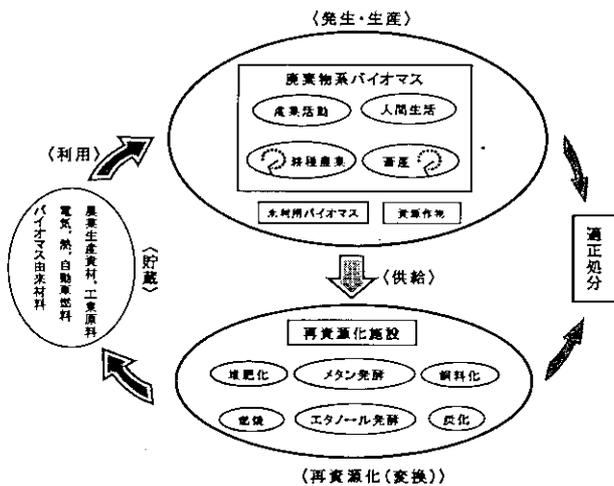
(独) 農業工学研究所 資源循環研究室室長
農学博士 柚山義人

1. はじめに

2002年12月にバイオマス・ニッポン総合戦略が策定された。昨年2月16日には京都議定書が発効した。本稿はバイオマスの健全な利活用へ向けての総力を結集した活動を研究面から支援すべく基本情報を提供することを目的とする。FC千葉協議会のカウンセラーのために用意した講演である。

2. バイオマスの利活用のイメージをつかもう

バイオマス・ニッポン総合戦略では「バイオマス」を「再生可能な生物由来の有機性資源で化石資源を除いたもの」と定義する。この定義は人間による利用に力点を置いたものと言える。バイオマスを再資源化して利用するイメージを図に示す。



3. バイオマス利活用の現状

有機性廃棄物の発生量は年間2.8億トンである。内訳は家畜糞尿9400万トン、下水汚泥9900万トン、し尿2000万トン、生ごみ2000万トン、食品産業汚泥1500万トンである。これらの成分含有量は、窒素132万トン、燐酸62万トン、カリ85万トンである。これは化学肥料使用量の260%、100%、190%に相当する。この内畜産廃棄物が最も多く農地還元され、窒素36万トン、燐酸11万トンと推定される。

4. バイオマス利活用の構想策定にあたって

バイオマス利活用の推進にあたっては、持続的な地域資源の管理、信頼すべき運営組織、確実な再生資源の需要及び輸送が重要である。

5. 地域診断により構想や計画を煮詰めよう

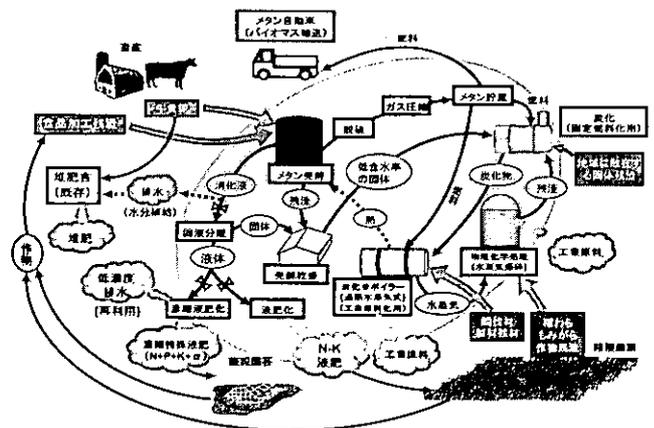
バイオマスの利活用は、地域の自然条件、社会基盤、産業社会構造を色濃く反映したものになる。概ね30km以内の空間規模で議論が進むことが多い。どのような構想や計画についても、提案・企画者自ら、または地方自治体等の担当部署は、現状を正しく認識した上で、構想や計画の効果や正負の影響を早い段階で分析する必要がある。これを「地域診断」と呼ぶ。地域診断のためのモデルを知ろう

6. 地域診断のためのモデルを知ろう

農林水産バイオリサイクル研究「システム化サブチーム」による物質循環の診断ソフトである「バイオマス資源循環利用診断モデル」を紹介。

7. バイオマス多段階利用システムの構築及び実証試験

下図は香取郡山田町で平成16年～18年に実施されるバイオマス多段階利用システムの概要のチャートである。



8. おわりに

産学官の連携が強化されつつある今、一気に制度設計を行い、研究資源を投入して道筋をつけたい。

阿部邦夫記

環境マネジメントシステム支援センターの紹介

(1) 今までは ISO14001 構築支援中心の活動

環境マネジメントシステム（「EMS」と略す）支援センターは千葉県協議会の中でも最も早く立ち上げたセンターで正式には今年で6年目になります。毎年、実施している企業環境セミナーは今年で8回目になります。

もともと環境に真面目に取り組む組織に対して安い料金で環境マネジメントシステム特に ISO14001 の構築支援及び関連セミナーの講師派遣を行ってきました。

毎月1回研修会を開催し、会員のレベルアップを行い、引き合いに備えています。現在までに構築支援を10数件、各種セミナーの講師を約10件実施してきている他数多くの各種相談に対応してきています。

(2) 今年は更に「エコアクション21」の

普及活動を行なう

環境省が推奨する「エコアクション21」(以下「EA21」と略す)は、従来のガイドラインを大幅に見直し、中小企業には魅力ある「EA21 認証・登録制度」に生まれ変わりました。

これはISO14001が61ヶの要求事項に対応する形でそれぞれの組織で自らマネジメントシステムを構築し、かなりの部分を組織の裁量で決めなければならないのに対して、EA21は環境経営システム、環境への取組、環境報告の3要素からなっています。又、環境への取組としては環境負荷として最も重要な二酸化炭素排出量、廃棄物排出量、総排水量を必須としています。

更に環境活動レポートを作成し、外部に公表することも決められており、これによって利害関係者（取引先や一般消費者等）に対しての信頼性が向上します。

認定されたEA21審査人による審査を受けて適合しておれば、EA21事業者として認証・登録されます。

費用面でも組織の規模により異なりますが、登録料（2年分）：5万円又は10万円、審査費用：10～30万円とISO14001に比べて大幅に安くなっています。

今年、EA21に関して認証・登録の推進体制も決まり、中央事務局に「(財)地球環境戦略研究機関持続性センター」、地域事務局に「(財)千葉県環境財団」が認定されました。我々千葉県協議会は地域事務局である(財)千葉県環境財団に対して技術面で全面的に協力していく協定書を結んでおります。

長期的には県内で数千の事業者にはEA21の認証・登録を取ってもらうことを目標としていますが、EA21の知名度はまだまだ低いので、今年度先ず普及活動にエネルギーを注ぎ込みます。具体的には

① 各地でセミナー開催：県、各市町村、商工会議所その他の業界団体の協力を得て、来年2月迄に県内各地で5回開催する。その第1回をEA21中央事務局等との共催で8月26日に千葉商工会議所で開催する(千葉県、千葉市からも後援を受けている)。基本的には参加料を無料又は低額として一人でも多くの参加者を期待する。セミナー終了後、認証・登録に興味ある事業者の個別カウンセリングを行う。

② 当会員が事業者を訪問：各地在住のEMS支援センター員が近隣の各市町村役場、商工会議所、工業団地組地組合、その他の業界団体、更には事業者を訪問し、EA21のパンフレット配布、パワーポイント画像による説明など、PR活動を行うと共に、上記セミナーへの参加を呼びかける。

以上のように今年には特にEA21の普及活動に力を入れるがISO14001とEA21は競合するものではなく、お互いが勝者となるWin Win関係にある点に留意する必要があります。

EMS支援センター員は36名(その内、ISO14001審査員25名、EA21審査人10名)で対応を考えていますが、それ以外の方の参加を歓迎します。お問い合わせなど二宮恵までご連絡ください。

(E-Mail : ninomiyama@sannet.ne.jp)

環境マネジメントシステム支援センター長 二宮恵

第1回 中小企業環境セミナー

激動の時代を環境経営で勝ち抜く方法

「エコアクション21に取り組もう」

日時：平成17年8月26日(金)

13:30～17:00 (開場：13:00)

会場：千葉商工会議所 14階第1ホール

(千葉市中央区中央2-5-1)

講演：1. エコアクション21の取組方法とそのメリット

2. 事例紹介 2例

3. 認証・登録の手続きとそのポイント

講演終了後に個別相談を受け付けます。

参加費：無料 定員：100名(先着順)

主催：EA21 地域事務局千葉県環境財団、千葉商工会議所

EA21 中央事務局、環境カウンセラー千葉県協議会

後援：千葉県、千葉市、千葉県商工会議所連合会

千葉県環境保全協議会、千葉県産業廃棄物協会

問い合わせ・申し込み先：

エコアクション21 地域事務局千葉県環境財団

〒260-0024 千葉市中央区中央港1-11-1

Tel 043-246-2082 Fax 043-246-6969

Eメール info@ea21-ckz.jp (山口)

<平成17年度事業部・事業計画>

5月29日に第14回環境セミナーを第3回通常総会の特別講演として「バイオマス利活用技術の現状と展望」をテーマに(独)農業工学研究所 資源循環研究室 農学博士 柚山室長に講演していただきました。

6月の環境月間に開催された「2005 ちばし環境フェスティバル」「袖ヶ浦市環境フェア」「鎌ヶ谷市市民環境展」に参加しました。

今後開催されます「東金市アースセレブレーション」「白井市環境フォーラム」「四街道市ごみ減量・不法投棄防止展」「千葉市民活動センターまつり」「全国地下水サミット2005」などにも参加を予定します。

8月1日に第8回企業見学会として「キッコーマン野田工場」の工場見学会を予定しています。

9月18日に開催される「エコメッセちば2005」には環境省関東地区環境対策調査官事務所と共同で「地球温暖化対策の啓発」をテーマに参加を予定しています。

今年度は新規事業として環境公開講座を開催します。

第1回は7月23日(土)午前10時～12時、千葉市民会館で「水を貯える、水を育む」をテーマに、千葉大園芸学部・理学博士・唐常源教授に講演していただきました。

第2回は9月17日(土)午後2時～5時、千葉市民会館で廃棄物・リサイクルで著名な千葉県庁の石渡正佳氏にリサイクルをテーマに講演していただきます。

第3回は12月に地球温暖化対策、第4回は2月に介護施設の環境対策の開催を予定しています。

11月26日(土)に第7回秋季研修会を昨年と同じ幕張の(財)海外職業訓練協会(OVTA)にて一泊で開催を予定します。

新規活動の調査研究として水環境研究会を随時開催し、今後の活動の方向付けをしていきます。

以上の何れの事業活動についても皆様の積極的な参加をお願いします。(事業部長 茂利 晃)

世界遺産—その後

7月15日、日本では3番目となる世界自然遺産に「知床」が登録された。

北海道の斜里町と羅臼町にかかる知床国立公園、音根別岳原生自然環境保全地域などの陸域と海岸線から約3kmの海域を含む約7万haである。地元民の暮らし(漁業や砂防ダムの問題)や登録で急増する観光客の自然に与える影響など懸念事項は多い。

また文化庁は国内初の産業遺跡(文化遺産)に島根県石見銀山遺跡の推薦を決定。ユネスコ審議は'07年。

水展と水フェスティバル

千葉県中央博物館では特別企画展『水展』が8月31日まで開催されています。夏休みにあわせたこの企画展は従来の『見せる』展示から『体験する』ものとして早くも各方面から注目を集めています。

会期中の催し「水フェスティバル」に協議会が参加、環境学習センターを中心に「水はなにからできているか」「水ができる時に何が起こるか」を解明するため水の電気分解を実演、参加のこどもたちは食塩水と備長炭を使って電気分解と燃料電池の実験を体験します。

7月17日(日)に行なわれた第1回目では水を電気分解して取り出した水素ガスを燃料電池に送り、電気を発生させて「クマの笛太鼓」やオルゴール、ミニ扇風機、ダイオードの点灯などを楽しんでいました。

「チーム・マイナス6%」に参加しませんか

- ① 冷房は28度に設定しよう。
- ② 蛇口はこまめにしめよう。
- ③ エコ製品を選んで買おう。
- ④ アイドリングをなくそう。
- ⑤ 過剰包装を断ろう。
- ⑥ コンセントをこまめに抜こう

以上、6つの具体的な行動を呼びかけています。

<http://www.team-6.jp> にアクセスしたら、アドレスとニックネームを入力、取り組む項目をチェックしたらあなたもメンバーです。

「省エネ、10のポイント」実行しましょう

1. 冷房は28度を目安に温度設定します。
2. 冷房の使用は最小限を心がけます。
3. テレビはつけっぱなしにしません。
4. 使わない電気製品はプラグを抜きます。
5. ひとのいない部屋は消灯します。
6. 冷蔵庫は物を詰め込みすぎず整理整頓します。
7. 入浴時はお湯やシャワーの使いすぎに注意します。
8. 洗濯はまとめて洗います。
9. 駐車時はアイドリングストップします。
10. 近所の外出は車に乗らないようにします。

以上10項目をカレンダー上に実施状況を記入し、換算式で省エネ効果を計算、集計ハガキに記入してポストに投函すると、(財)省エネルギーセンターではデータ集積をして、ホームページ上で発表します。

<http://www.eccj.or.jp/smartlife/>

＝入れない・捨てない・拡げない＝

『特定外来生物法』

小 角 浩

最終段階に至り「オオクチバス」を対象種として政令で指定するか否か、環境省の姿勢が注目された『特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律』がこの6月1日から施行された。

平成4年、リオ・デ・ジャネイロで開催された「地球サミット」で採択され、翌年、締結・発効された「生物の多様性に関する条約」に基づく締結国決議「生態系・生息地及び種を脅かす外来種の影響の予防、導入、影響緩和のための指針原則」を受け、同14年「新・生物多様性国家戦略」、同15年「移入種対策に関する措置の在り方について」の中環審答申を経て足掛け13年の成果である。

地球上各地域固有の生物である「在来種」に対し、本来の移動能力を超えて、意図的・非意図的に移動させられた生物種を「外来種」と称しているが、明治以降わが国に移入した外来種は2000種を越すとされている。

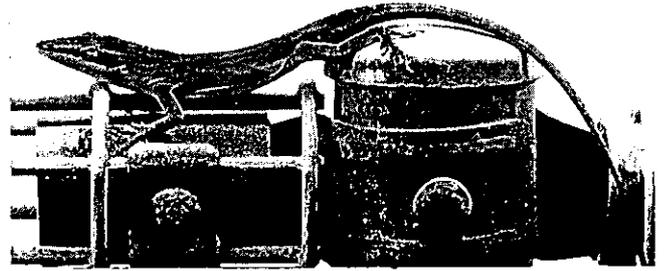
もとより、これら移入種の大半はその後、帰化・定着し有用種として活用され、更には改良が加えられヒトの生活基盤を支えているが、なかには良かれかしと願って移入したものの思わぬ方向に転回した例も見出されている。

この法律の主旨は、外来生物のうち、「三悪影響」即ち、日本固有の生態系、人の生命・身体、農林水産業への悪影響を与えるもの、与えるおそれのある侵略的な外来生物を「特定外来生物」として指定し、飼育、栽培、保管、運搬、販売、譲渡、輸入、野外に放つことなどを規制し、また、野外にいるこれら特定外来生物の防除を進めることでその被害を防止することを目的にしている。

このほか、在来生物とはその性質が異なることにより、生態系に対して被害を及ぼすおそれのあるものがある疑いのある「未判定外来生物」とはその性質が異なることにより、生態系に対して被害を及ぼすおそれのあるものである疑いのある「未判定外来生物」、更には上記生物と外見上容易に区別しがたい種に対して、該当しない旨、外国政府機関等発行の「種類名証明書」の添付が必要な生物については輸入に制限を課すことにしている。

今後は、「三（ない）原則」＝入れない、捨てない、拡げない＝が国民共通の認識として求められている。

小笠原母島・民家のフェンスにやって来たグリーンアノール



斉藤千代子氏提供

つまり ①それらの生物を国内に持ち込まない
②持ち込む場合は野生化しないように管理する
③既に野生化しているものは駆除する
の三本柱で成り立っている法律であるといえる。

この法律に関して、環境省ホームページで詳細に紹介・解説されているが、37種の「特定外来生物のリスト」をはじめ、それぞれ対象種の特徴・被害の状況等も載っているのでご一覧をお勧めしたい。

そもそも、地球上に生物の発生以来、進化と共にその生息範囲は環境への適応を通じて種毎に変化・拡大しつつあるわけであるが、これには地史的長期間を経て行われてきていることは言うまでもない。

つまり、近年に至りヒトが大陸間を移動する以前は、生物種の移動には極めて長年月を要したのであるが、現在は自然界では起こり得ないスピードでしかも遠くまでヒトが生物種を移動させている。

食用、観賞用、ペット等をはじめ、緑化用、天敵利用等の目的で多数の生物が意図的に持ち込まれ、野に放たれてきたツケが今日の外来種問題として地球規模での問題提起となったわけである。

今日、生物多様性の保持にとって、開発行為による生息環境の破壊に次いで驚異となっているのが、侵略的外来生物の侵入である。その結果、捕食による在来種、なかでも希少種の減少、競合する在来種の駆逐などの直接的影響のみならず、近縁種との交雑による遺伝的汚染、採餌行為による植生の破壊に伴う土壌流出などの間接的影響をも含めて、生態系・生物相は変化を強いられ、種によっては絶滅に追いやられることになる。

人為的な導入失敗例として知られる沖縄県、鹿児島県・奄美大島への「ジャワマングース」は、捕食すべき本人？と、餌になるべきハブの行動パターンが文字通り昼と夜ほど違っていたため、予期した効果が上がらぬどころか、野生化したネコと共に「ヤンバルクイナ」「アマミノクロウサギ」を追いつめていると言う信じがたい結果をもたらしている。

また、当初は意図的ではなくとも、結果として悪影響をもたらしていることにベットの遺棄がある。

今回のリストにも多種みられるが、これらは個人の生活対応が社会生活全体に通じている事実認識、ひいては意識改革が求められることとなる。

輸入大国である我が国には、船底に付着したり、積荷に紛れて上陸する外来生物が知られており、今回のリストにも挙げられている。

東京湾をはじめ、国内各地の港湾で護岸岸壁等に多数の外来生物が見られるが、これらは船舶に汲み込まれたバラスト水がその伝搬に一役買っていると言われる。貧酸素により在来生物が衰退した後に、そのような環境にも耐え、適応できる強い生物が勢力圏を拡げるパターンである。

一方、バラスト水は輸出入の積荷重量に反比例するところから、我が国はバラスト水の輸出大国とも言われている。近年、オーストラリアやニュージーランド沿岸に東アジア原産のワカメ等が拡がってきており、在来の海草類を圧迫しているとも言われる。近未来、オセアニア産の浅草のりが輸入されるようにならんとも限らない？。

一般的に多種・多数の生物が生息する大陸系の生物種に対して、島嶼部の生物は競争力に劣ると言われている。我が国にあっては、かつて大陸と地続きであったこともある本州弧・琉球弧の「大陸島」に比べ、一度も大陸と繋がったことのない「海洋島」である小笠原諸島では一層深刻である。

北の「知床」に次いで世界自然遺産登録を目指している南の「小笠原」は、豊富な固有種が生息する原生自然がウリだが、ヒトが住んでいる父島や母島で近年「シマアカネ」「オガサワラトンボ」「オガサワラシジミ」「オガサワラセミ」などが姿を消しつつある。

主犯として、今回リストアップされている「グリーンアノール」の嫌疑が濃厚であるようだ。このトカゲは米軍統治下にあった60年代にベットとしてか、物資に紛れて持ち込まれたと考えられている。

背筋に一本白い星の列を連ねた淡緑色・体長10センチ程の侵入者にとって、元来、哺乳類は「オガサワラオオコウモリ」、爬虫類では「オガサワラトカゲ」しか居ないという、捕食者の少ない環境でおっとり進化してきた生物（特に昆虫類）は、格好の餌食と映ったことであろう。

この他、小笠原では、「ノヤギ」による食害・裸地化に加えて、野生化した「ネコ」による天然記念物「アカガシラカラスバト」の捕食等も問題となっているが、現時点では『外来』扱いてないので対象外である。

本来、国境という人為的な線引きは、自然界にとっては無縁のものであるから、今後は所謂「国内」にあ

っても、地域別の遺伝子段階の問題をも含めて検討すべきではないかとも考えられる。

侵略的外来生物の問題が、他の環境汚染問題と異なるのはその発生源を突き止め、放出を止めることによって取り敢えずは絶対量の増加を防ぐことが可能である化学系汚染に対し、その段階だけでは生物として環境のなかで自己増殖を続ける彼等を駆除することは出来ないところに深刻な問題がある。

この駆除の問題に本法の成果が懸かっていると言っても過言ではあるまい。

環境省では、内部組織としての全国11ブロック「地区自然保護事務所」と、9ブロック「地方環境対策調査官事務所」を統合・再編し、本年10月を目指して新たに地方支分部局として7『地方環境事務所』を設置するという。

CO2削減、廃棄物処理、環境教育等に加えて、この『生物多様性保全—特定外来生物駆除』の対策・実施が期待されるところであるが、この問題もまた、国民一人一人の正しい認識と実行なくしては効果が上がらないのば言うまでもない。

日々深刻化する環境問題の解決は一朝一夕にしてならぬことはやむを得ぬとしても、日々個々に生活する生活者として、ましてやこの半世紀の間、科学技術の発展による成果を、有形・無形の内、それなりに享受してきた世代の一員として、更には自ら求めて『環境カウンセラー』となった今日、我が子、我が孫のみならず、次世代以降のヒト達が、この『水と緑の惑星』上で、多様性の保たれた他の生物と共生できるよう、微力とはいえ、共に手を携え、確実な一歩一歩を考えながら歩んで参りたい。

◁)))) ≡ 外来種こぼれ話 ≡)))) ▷

些か旧聞になるが、2003年2月、お茶の間は連日外来種の問題に満ちていた。環境省の皇居お濠（牛ヶ淵）掻い掘りによる移入種の追い出し作戦である。お濠でさえバスがひそかに放流され、そのため在来種が激減していた。

この作戦の連日のTV放映で「外来種」という言葉が世間一般に普及したといわれている。

日本においては、これまで外来種対策や論議はあいまいであった。昨今はタブーが解かれ、環境学習のプログラム（生物の多様性や生態などの話題）で取り上げることもかなり容易になってきた。

日本産生物も他国へ行けば外来種。クズやワカメなど勢力を拡げているものもある。 T・K

役員就任の弁

◎ 西田啓作 (にしだ けいさく)

事業者部門 理事(EMS 支援副センター長)・松戸市
 同じ団地にお住まいの土田理事長がカウンセラー名簿に名前を見付けて協議会の広報誌を毎度拙宅ポストに投げ込んで下さる熱意に誘われて入会し、EMS の研修会に参加していました。団地の老年料理教室で親しく付き合っていましたら、昨年末に EA21 の手伝いをせよと言われ、気が付いたら協議会の役員まで引き受けさせられていました。今後はEMS支援センターでEA21を担当するだけでなく、地域事務局千葉環境財団の非常勤職員としても仕事をさせていただきます。

☆新入会員の自己紹介☆

◎ 長谷川三喜雄 (はせがわ みきお)

事業者部門・松戸市

水処理の企業で約 35 年間、主として国内外の水処理設備の設計・建設に従事し、その後コンサルタント会社に約 6 年勤務し、地方自治体の水道事業の仕事をしてきました。したがって、水質汚濁防止に関係することでお役に立つようなボランティアをしたいと思い、カウンセラーの資格を取り、本会に入会いたしました。

なにぶん初めての事ですので何が出来るかわかりません。諸先輩のご指導を得て少しでも早くお役に立ちたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

◎ 八幡英明 (やはた ひであき)

佐原市

広島県生まれ被爆。山梨県移住。

S41 年立教大卒。H9 年まで繊維関係会社経営 現在は病院・福祉へ。リネンサプライ会社・病院給食会社の顧問。

環境に関連する専門的資格等は有りませんが、温暖化・水質悪化問題など勉強して、市民の目線で出来ることを始めねばねばとの気持ちで参加しました。趣味の歌で仲間と老人ホームなど慰問活動中。

◎ 福井信行 (ふくい のぶゆき)

柏市

私は損害保険会社に勤務中、業界のシンクタンク、損害保険事業総合研究所に出向し、同研究所が環境問題と産業界のあり方についての研究を受託したことから環境問題への想いをめぐらす機会を得、事態の重大さ、深刻さについて理解ができました。

復帰後、工場リスク調査等を行うリスクマネジメント部署に所属し、事業所の環境管理について企業活動を支援する業務に携わりました。EA21 審査人として企業の環境保全の取組みが、産業界で中小事業者まで幅広く裾野が広がるように普及活動に努めたいと思っています。テニスと将棋とで頭と体を鍛えています。

◎ 種本利治 (たねもと としはる)

事業者部門 理事(総務部副部長)・浦安市

広島県出身。鹿島コンビナートの化学企業で環境保全・保安防災・労働安全の業務に就いて 11 年になります。行政との関わりなどを通じ、社会的な環境問題に関心を持つようになりました。協議会の会員として 1 年余り、理事会にオブザーバーで出席したり、いろんな行事に参加しました。ISO14001 の経験を EA21 推進に活かしたいです。総務部で皆様の活動を支えると同時に、出来るだけ多くの活動・行事に首を突っ込んで楽しみたいと思っています。

—♪♪—♪♪—♪♪—♪♪—♪♪—♪♪—

◎ 古口 誠 (こぐち まこと)

事業者部門・市原市

企業の研究開発部門で、色々な化学物質の適正な取扱い・処理等の実務を 10 年程度実施してきました。

その後 ISO14001 認証取得事業所の一部門として、環境関連業務を 9 年程度実施(特に啓発・教育に力を入れて活動中)、その間 ISO14001 認証取得の支援業務を行なっています(英 Institute of Environmental Management and Assessment の環境監査員補でもあります)。

今は殆ど活動できない状況ですが、環境に関する啓発や教育が非常に大切なのではと考えており、微力ながら何かできないかと考えています。

◎ 吉田耕一 (よしだ こういち)

事業者部門・成田市

はじめまして、私は成田市に在住、在勤しております。会社では環境関連の仕事のウェイトが高く、製品環境保証や教育に苦勞しております。

現在はあまり自由な時間をとることができず、土日が活動主体ですが、しばらくは環境教育に重点をおいて活動したいと思っています。先日千葉博物館で環境教育のワークショップに参加して参りました。今後皆さまにも色々ご教示を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

◎ 河村秀樹 (かわむら ひでき)

事業者部門：千葉市

広島県出身。総合エンジニアリング会社・技術部資源環境室長。大気、水質等の環境調査を経て、近年は廃棄物、バイオマス、土壌汚染関連のコンサルティング担当。

地球規模の環境問題は待たなしの現在、よりよい環境を次世代に継承するために少しでも役立つ活動ができればと思います。皆様のご指導の元、得意としない分野も含めて、環境全般に係る活動ができればと考えています。

◎ 中嶋 滋 (なかじま しげる)

事業者・市民部門：白井市

長野県。建設会社勤務。技術士(建設・総合技術管理部門)一級土木及び造園施工管理士。'00年世界里山会議 in 長野に参加。バイオマス等を生かした農業と里山の融合。CO2削減、建設リサイクル、4R、ゼロエミッション、ダイオキシン分解、土壌浄化、射撃場修復等や、28年間のボランティア、ホームヘルパー等市民活動を生かした緑化環境共生の街づくりのために地球温暖化、トータルエコ、介護施設の環境改善、環境教育、EMS、里山保全などに取り組んで行きたい。

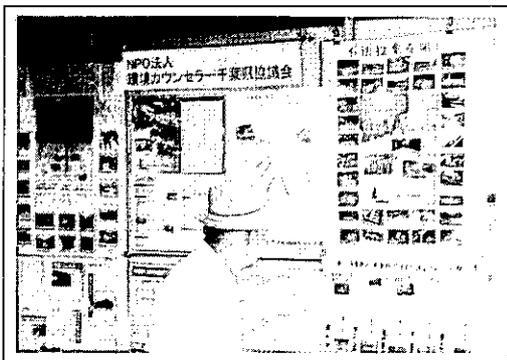
◎ 鹿嶋 和子 (かしま かずこ)

市民部門 香取郡神崎町

私は高齢者の方々に環境の整った美しい自然の中で生き生きと余生を送って頂くための活動としてハワイアンフラの指導を致しております。その中でレジ袋軽減運動を促し、実践してまいりました。レジ袋も有料化され、マイバックの普及率を上げたいと思っております。現在、バイオマスに興味を持っており、専門家のご意見を聞きながら勉強したいと思っております。

廃棄物対策センター

大山長七郎



今年の梅雨は各地で異常降雨となり、災害は国民生活に大きな影響を与えた。地球温暖化防止のため、国民に一層の努力が求められている。環境省は'03年度の温室効果ガス(二酸化炭素など)の排出は'90年度比で8.3%増加したと発表した。また産業廃棄物の不法投棄量は約1,267万トンが未処理で放置されている。

6月は環境月間で各自治体が活動している。市民の関心が大きいごみ問題についても、毎日100~150グラムでもリサイクルによって減量できれば二酸化炭素の排出が削減され、温暖化防止に寄与できるのである。

今回勝浦市(6月6日~10日)、佐原市(6月24日~28日)に協力して、ごみ分別によるリサイクル推進及び廃棄物の不法投棄の防止をPRするためパネル、サンプルを展示した。市民の関心は高く、今後とも他自治体に展示を進めていく予定である。(写真は佐原会場)

◎ 松本定子 (まつもと さだこ)

市民部門：市川市

8年前のCOP3から環境意識が芽生えました。当時の広報に「市川市環境市民会議」の「環境基本計画」論文募集があり応募、15名の委員の一人になりました。

6ヶ月にわたり地球温暖化など専門知識を持つ方々の触発を受け、「自分でできること」を見つけ4人の仲間と「市川市版環境家計簿」を提案、採択されました。

スタートは環境市民会議が基本になり、現在は省エネセンター教育モデル校専門員、市川市エコライフ推進員、じゅんかんパートナーなど市川市を中心とし、地域における啓発活動をしております。

鎌ヶ谷市市民環境展

本間 格

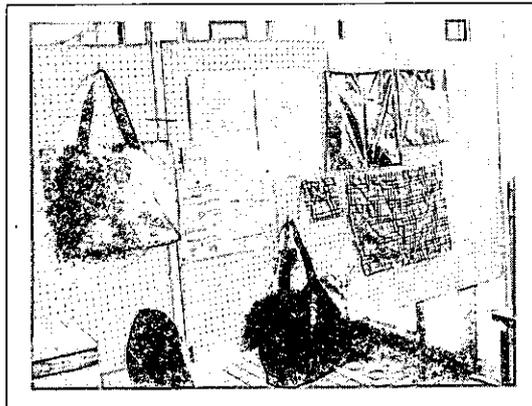
市民環境展は「もったいないをひろめよう」をテーマに、鎌ヶ谷市役所1階ロビーにおいて、6月19日(日)のエコバザー、ワークショップを皮切りとしパネル展示が24日(金)まで行なわれた。市内5団体、当協議会を含む広域2団体及び市の環境課とクリーン推進課が参加した。

日曜は裂き織のコースター、エコタワシ作成のワークショップ、及びエコバザーのほか、日本環境協会・こども環境相談室の省エネカードゲーム「メルルと卵」を紹介、実際に子どもたちや市役所の職員を交えてゲームを行った。ゲームの参加者たちは省エネが地球温暖化防止につながることを興味深く学んだようだ。

参加団体の活動報告には繊維のリサイクルとなる裂き織及びフックド・ラゲのパネル、保温調理の薦め、自然の保全や今話題の遺伝子組み換えナタネ監視の報告、また当協議会はパネル7枚と広報誌を配置、環境学習、地球温暖化対策及びEA21の紹介のほか、今流行の「ケールピズ」や「百万人のキャンドルナイト」の話題を提供した。

また傘の素材によるエコバッグの見本を河井恵子さん、作り方を大西優子さんに協力を得、買い物袋持参運動を推進している鎌ヶ谷市の廃棄物減量対策と連動させて展示した。レジ袋のデータ一覧はレジ袋を断るこの意味を具体的に示したものとして好評であったそうである。

鎌ヶ谷市買い物袋(赤と紺)とエコバッグ



総務部からのお知らせ

1. 会費納入のお願い

年会費は会員の皆様の活動にとって重要な資金源です。平成17年度会費を未納の方は、速やかに、3,000円の納入をお願いします。

郵便振替口座番号 00110-5-34692

(加入者名: NPO 法人環境カウンセラー千葉県協議会)

2. 寄付金 (3月7日~6月25日)

土田 茂通氏 4,000円 山本 光男氏 57,000円

ありがとうございました。

地域短信

- ☆ EA21 地域事務局・千葉県環境財団の HP が開設された。当協議会と地域事務局は全面的協力関係にあり、当協議会の HP を担当している有馬穂顧問が作成した。手続面だけでなく、セミナー開催にも触れている。全国の地域事務局の EA21 HP の中でも出色の出来である。URL は下記の通り。
是非一度ご覧下さい。 (西田)

<http://www.ea21-ckz.jp/>

環境カウンセラー全国連合会(ECU)便り

NPO 環境カウンセラー全国連合会 (ECU) 総会が 6月24日(金)東京北区の滝野川会館で開かれ、16年度の事業実績、17年度の事業計画などが報告された。

17年度の主な事業計画は

- (1) 環境教育推進に関する事業：
指導者の育成、インストラクターの認定及び養成、出前講座を含む環境相談など
- (2) 事業者の環境経営支援：
EA21の取り組み、セキスイプロジェクトの継続など
- (3) 「我が家の環境大臣」
- (4) EC 制度 10 周年記念事業
などである。

ECU には協(議)会が奈良県、静岡県と加わり 29 団体となった。役員は 3 名が辞任、5 名が新任、当協議会では藤田氏辞任、戸村氏新任で副理事長に選出された。

(ECU 担当 本間 格)

- ☆ (社) 日本プラントメンテナンス協会発行の Plant Engineer 7月号 PEOPLE NO.196 に荒野喆也顧問のインタビュー記事がある。「エコアクション 21 でグリーン・サプライチェーンを構築する」がタイトルで、2 ページの中にポイントが整理して記述され、インタビューを受けた荒野氏は無論のこと、インタビューした側のまとめもかなりのものであった。氏の環境カウンセラー外でのご活躍の様子がうかがわれた。
(二宮)

- ☆ 東金市環境保全課は 6 月、自然ミニ事典「ふるさとの野山を歩こう」を発刊、作成には当協議会の猪坂玲子さん率いる「ときがねウオッチング」が協力した。森林、里山・谷津田、田んぼ、水辺をカラー52 ページで紹介、身近な自然の大切なことに気付くきっかけ作りに活用して欲しいとしている。(倉田)

編集後記

時節柄、「我が家の環境大臣」「チーム・マイナス6%」など、京都議定書発効以来、地球温暖化防止活動に用いるツールが目白押しです。これらを紹介しましたが、皆さんご協力のほどお願いします。

また、6月1日から施行された「特定外来生物法」について、小角浩顧問に解説をお願いしました。

有難う御座いました。(本間)

「地産地消」、千葉では「千産千消」はかなり認識された用語であるが、バイオマス利活用の柚山先生によれば「旬産旬消」でまさにこれと思った。

余分なエネルギーを使わず、おいしい!これぞ地球温暖化防止に寄与するスローライフの極意か!!

皆さまの地域からの発信をお待ちしています。

(倉田)

広報 環境カウンセラーちば 第25号 (発行日 2005年8月1日)

発行: 特定非営利活動法人 環境カウンセラー千葉県協議会 (発行責任者: 土田 茂通 会員: 126名)

ホームページアドレス: <http://www005.upp.so-net.ne.jp/ec-chiba/index.htm>

事務局: 千葉市美浜区真砂3丁目18番2棟505号 戸村 泰方

Tel 043-270-6600 Fax 043-270-6601 (各種ご相談、お問い合わせはこちらに)

郵便振替口座: 00110-5-34692 (加入者名: NPO 法人環境カウンセラー千葉県協議会)

編集: 広報部 本間 格・倉田智子・二宮 恵・大山長七郎・松本源寿・石黒 忠・佐藤素子

Tel & Fax : 047-445-3208 ・ E-Mail fwkd4421@mb.infoweb.ne.jp (記事寄稿先) (古紙 100%再生紙使用)